

たかほしがわ
高梁川流域圏成長戦略ビジョン
(第4回改訂)

〈連携中枢都市圏ビジョン〉

～高梁川の流れとともに、

未来に続く流域の成長と発展を目指して～



平成31年3月

岡山県倉敷市

目 次

序章 高梁川流域圏における広域連携について	1
1. 連携中枢都市圏の名称及び構成市町	2
1) 連携中枢都市圏の名称	2
2) 連携協約を締結する市町の名称	2
3) 具体的取組の期間	2
2. 高梁川流域圏の現状と将来像	2
1) 高梁川流域圏の現状	2
●連携中枢都市（倉敷市）への通勤通学者割合	3
●人口推移（見込み）	3
〈推計人口〉・〈年少推計人口〉・〈生産年齢推計人口〉・〈老年推計人口〉	
〈圏域全体の人口推移〉・〈推計人口（年齢区分割合別）〉	
●人口動態の状況	7
〈自然動態の状況〉・〈社会動態の状況〉	
●観光動態の状況	13
●統計指標	17
●各自治体の地域指定の状況	19
●圏域内自治体連携の状況	20
2) 高梁川流域圏の将来像	21
3) 将来の目標	22
3. 「圏域全体の経済成長」における具体的取組等	25
1) 現状	25
2) 取組の方向性	27
3) 基本目標	29
4) 連携協約等に基づき推進する具体的取組	30
4. 「高次の都市機能の集積・強化」における具体的取組等	42
1) 現状	42
2) 取組の方向性	43
3) 基本目標	43
4) 連携協約等に基づき推進する具体的取組	44
5. 「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」における具体的取組等	48
1) 現状	48
2) 取組の方向性	49
3) 基本目標	52
4) 連携協約等に基づき推進する具体的取組	53
ア生活機能の強化に係る政策分野	53
イ結びつきやネットワークの強化に係る政策分野	65
ウ圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野	68

高梁川流域圏における広域連携について

高梁川は岡山県と鳥取県境の新見市花見山（標高 1,188m）に源を發し、111 k mの流れを経て、瀬戸内海に注いでおり、支流を含めた流域は広島県におよび 2,670 k m²の流域面積を誇っている。

高梁川流域は、7世紀後半に吉備国を三分して設けられた備前国、備中国、備後国のうち備中国領域とほぼ圏域を同じくし、鉄産地など古代から開発が進んだ先進地帯であり、古墳群を有することから、有力豪族の拠点であったとされている。高梁川の流れと共に生き、豊かな恵みを共有するこの流域圏は、13世紀以上を経ても地域間の強いつながりが引き継がれている。

こうしたことから、流域の自治体（現在の新見市・高梁市・総社市・早島町・倉敷市・矢掛町・井原市・浅口市・里庄町・笠岡市）等は、昭和29年3月に「高梁川流域連盟」を設立し、産業や文化・教育など流域全般の文化向上に寄与する取り組みを不断に進め、平成26年3月に創立60周年を迎えた。平成25年10月には、流域7市3町の首長・議長が一堂に会する60周年記念サミットを開催し、今後の流域活性化のため、連携をより強固なものとし、まちづくりにかかる課題解決に共同で取り組むことを宣言した。

高梁川の上流から下流に位置している7市3町は、気候や風土が異なり、主要産品についても北部の農産物から南部の製造品や海産物まで多種多様となっている。

こうした様々な地域特性のある市町が連携することで、圏域の特色を最大限に活かすとともに、農業・商工団体などの各産業分野や大学等高等教育機関、地域金融機関との連携や圏域内で最大の人口規模であり、工業・商業・観光など地域経済をけん引する倉敷市の持つ各資源を活用するなど、地域の総合力をもって、人口減少・少子高齢化社会への対応を図り、圏域全体の経済成長を目指すものである。

高梁川は、中国山地を源とし、瀬戸内海に注ぐ流れの中で、太古の昔から大地を潤し、人々がそこに集い、郷土の歴史と文化を生み、産業を育ててきた、流域に暮らす私たちにとっての、母なる川であります。

流域の風景や街並みが大きく変化する中であっても、私たちは、日々の豊かな暮らしや営みが、絶えることのない高梁川の流れ、そして、流域全体のつながりの中にあることを忘れることはありません。

さらに、今日的課題となっている人口減少や高齢社会の進展、大規模な災害に対する備え、地域の活性化などへの対応をするためにも、私たちは、そのつながりをより一層強める必要があると考えます。

(H25.10.21 高梁川流域連盟創設60周年記念流域サミット宣言抜粋)

1. 連携中枢都市圏の名称及び構成市町

1. 連携中枢都市圏の名称及び構成市町

1) 連携中枢都市圏の名称

高梁川流域連携中枢都市圏

2) 連携協約を締結する市町の名称

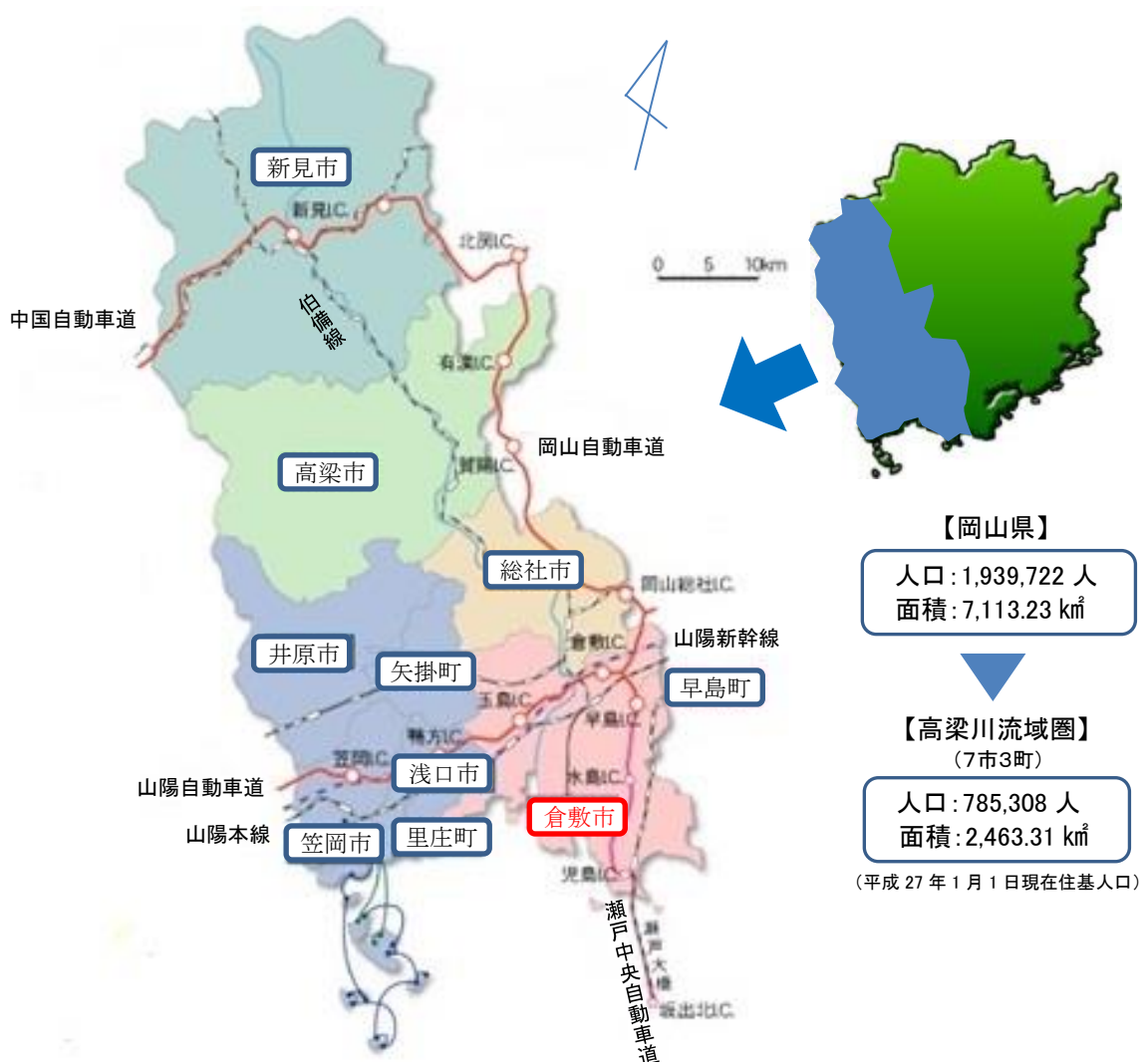
新見市・高梁市・総社市・早島町・倉敷市・矢掛町・井原市
浅口市・里庄町・笠岡市

3) 具体的取組の期間

平成27年度から同31年度までの5年間とする。
ただし、毎年度所要の変更を行うものとする。

2. 高梁川流域圏の現状と将来像

1) 高梁川流域圏の現状



●連携中枢都市（倉敷市）への通勤通学者割合

(%)

新見市	高梁市	総社市	早島町	矢掛町	井原市	浅口市	里庄町	笠岡市
0.9	3.3	22.3	36.1	17.9	3.1	27.4	13.7	6.5

※平成 22 年国勢調査より

●人口推移（見込み）

〈推計人口〉

(人)

(%)

市町名	平成 22 年	平成 27 年	平成 32 年	平成 42 年	平成 52 年	増減率
新見市	33,870	30,658	29,352	25,107	21,418	▲36.8
高梁市	34,963	32,075	29,276	24,460	20,234	▲42.1
総社市	66,201	66,855	63,552	59,471	54,408	▲17.8
早島町	12,214	12,154	12,395	12,129	11,702	▲4.2
倉敷市	475,513	477,118	470,554	450,721	423,124	▲11.0
矢掛町	15,092	14,201	13,650	12,132	10,645	▲29.5
井原市	43,927	41,390	40,359	36,332	32,376	▲26.3
浅口市	36,114	34,235	33,166	29,539	25,701	▲28.8
里庄町	10,916	10,929	10,702	10,166	9,521	▲12.8
笠岡市	54,225	50,568	48,324	42,119	35,972	▲33.7
合計	783,035	770,183	751,330	702,176	645,101	▲17.6
割合(%)		▲1.6	▲4.0	▲10.3	▲17.6	

(人)

(%)

岡山県	1,945,276	1,921,525	1,867,744	1,749,284	1,610,985	▲17.2
割合(%)		▲1.2	▲4.0	▲10.1	▲17.2	

(千人)

(%)

全 国	128,057	127,095	124,100	116,618	107,276	▲16.2
割合(%)		▲0.8	▲3.1	▲8.9	▲16.2	

※平成 27 年の人口は、平成 27 年国勢調査より（以下同じ）

※平成 32 年以降の推計人口は、国立社会保障・人口問題研究所発表資料より（以下同じ）

※推計値は、出生中位・死亡中位仮定によるもの（以下同じ）

※平成 32 年以降の「割合(%)」は平成 22 年対比（以下同じ）

※「増減率」は、平成 52 年対平成 22 年比（以下同じ）

2. 高梁川流域圏の現状と将来像

〈年少推計人口（0歳～14歳）〉

市町名	(人)					(%)
	平成 22 年	平成 27 年	平成 32 年	平成 42 年	平成 52 年	増減率
新見市	3,922	3,282	2,922	2,360	2,075	▲47.1
高梁市	3,432	3,026	2,623	1,989	1,617	▲52.9
総社市	9,472	9,559	8,195	6,838	6,133	▲35.3
早島町	1,983	1,892	2,013	1,771	1,704	▲14.1
倉敷市	69,740	67,297	62,396	53,656	49,541	▲29.0
矢掛町	1,740	1,532	1,357	1,128	1,011	▲41.9
井原市	5,429	4,660	4,238	3,498	3,141	▲42.1
浅口市	4,370	3,922	3,526	2,819	2,450	▲43.9
里庄町	1,518	1,516	1,387	1,205	1,140	▲24.9
笠岡市	6,350	5,552	4,635	3,554	2,953	▲53.5
合計	107,956	102,238	93,292	78,818	71,765	▲33.5
割合(%)		▲5.2	▲13.6	▲27.0	▲33.5	
岡山県		▲5.5	▲13.1	▲26.6	▲33.4	
全 国		▲5.1	▲13.5	▲28.5	▲36.3	

〈生産年齢推計人口（15歳～64歳）〉

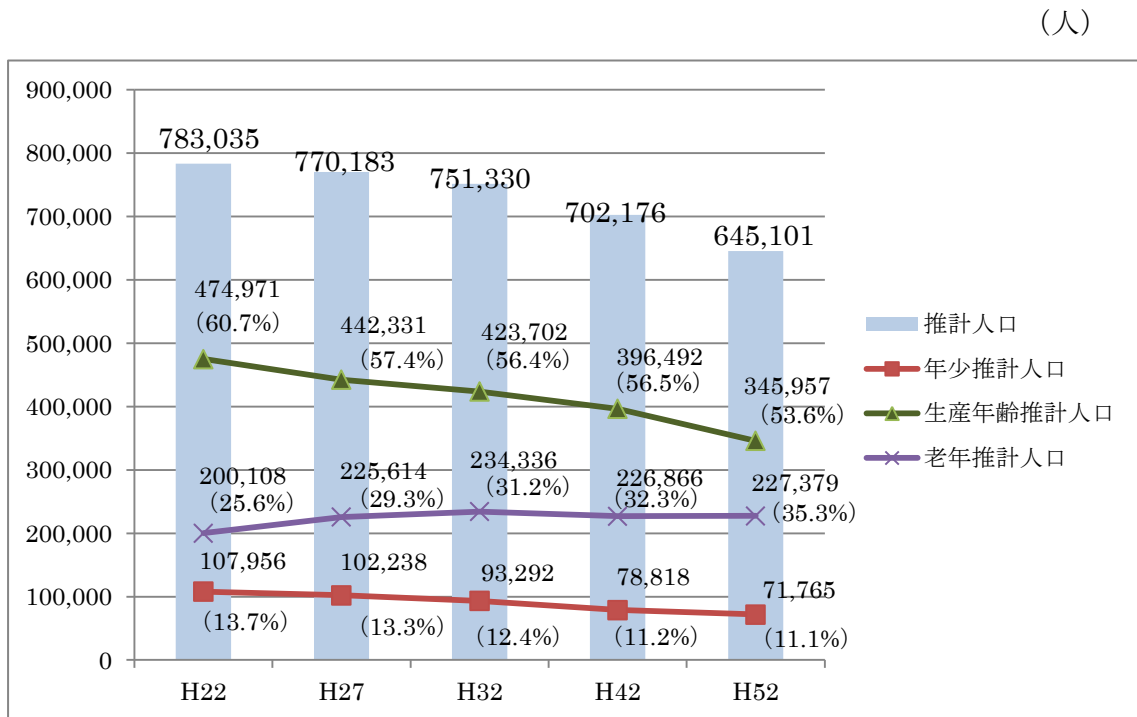
市町名	(人)					(%)
	平成 22 年	平成 27 年	平成 32 年	平成 42 年	平成 52 年	増減率
新見市	18,111	15,479	14,660	12,187	10,314	▲43.1
高梁市	19,114	16,674	14,545	11,849	9,619	▲49.7
総社市	41,142	38,985	36,445	33,843	29,533	▲28.2
早島町	7,422	6,905	6,898	7,037	6,465	▲12.9
倉敷市	297,699	282,420	273,845	263,564	233,459	▲21.6
矢掛町	8,307	7,419	6,921	6,153	5,216	▲37.2
井原市	24,771	22,476	21,529	19,322	16,442	▲33.6
浅口市	20,858	18,378	17,397	15,466	12,784	▲38.7
里庄町	6,493	6,156	5,824	5,535	4,928	▲24.1
笠岡市	31,054	27,439	25,638	21,536	17,197	▲44.6
合計	474,971	442,331	423,702	396,492	345,957	▲27.2
割合(%)		▲6.9	▲10.8	▲16.5	▲27.2	
岡山県		▲5.9	▲10.3	▲16.1	▲26.6	
全 国		▲5.5	▲10.2	▲17.1	▲29.2	

2. 高梁川流域圏の現状と将来像

〈老年推計人口（65歳以上）〉

市町名	(人)					(%)
	平成 22 年	平成 27 年	平成 32 年	平成 42 年	平成 52 年	増減率
新見市	11,837	11,897	11,770	10,560	9,029	▲23.7
高梁市	12,417	12,375	12,108	10,622	8,998	▲27.5
総社市	15,587	18,311	18,912	18,790	18,742	20.2
早島町	2,809	3,357	3,484	3,321	3,533	25.8
倉敷市	108,074	127,401	134,313	133,501	140,124	29.7
矢掛町	5,045	5,250	5,372	4,851	4,418	▲12.4
井原市	13,727	14,254	14,592	13,512	12,793	▲6.8
浅口市	10,886	11,935	12,243	11,254	10,467	▲3.8
里庄町	2,905	3,257	3,491	3,426	3,453	18.9
笠岡市	16,821	17,577	18,051	17,029	15,822	▲5.9
合計	200,108	225,614	234,336	226,866	227,379	13.6
割合(%)		12.7	17.1	13.4	13.6	
岡山県		12.6	16.3	13.6	14.5	
全 国		14.9	22.5	25.0	31.2	

〈圏域全体の人口推移〉



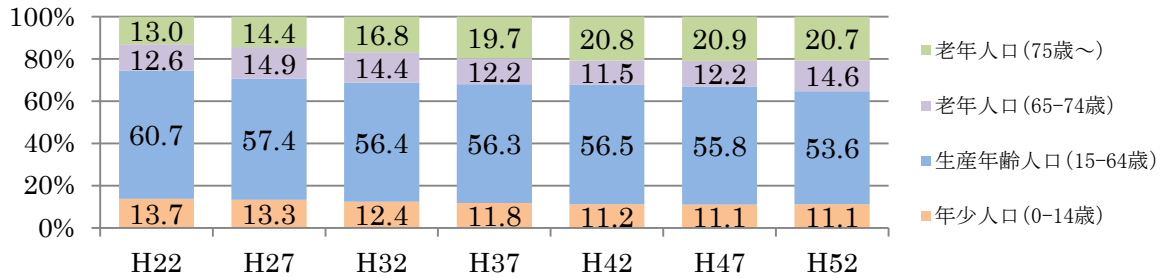
※ () %は人口に占める割合

2. 高梁川流域圏の現状と将来像

〈推計人口（年齢区分割合）〉

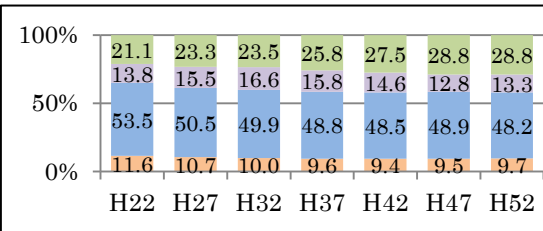
〔圏域全体〕

※単位：％

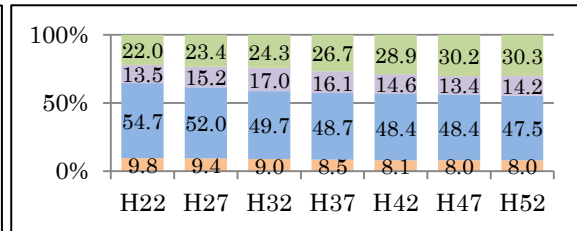


※国立社会保障・人口問題研究所発表資料より

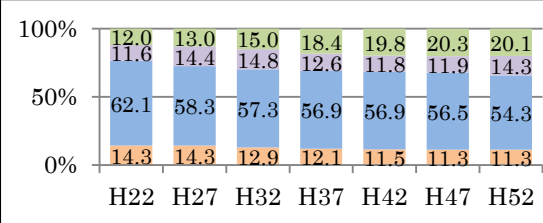
【新見市】



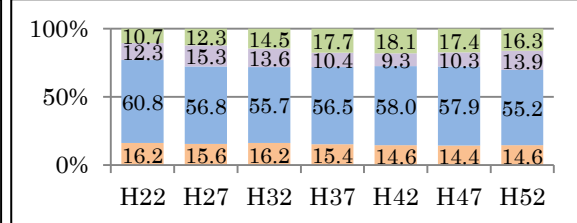
【高梁市】



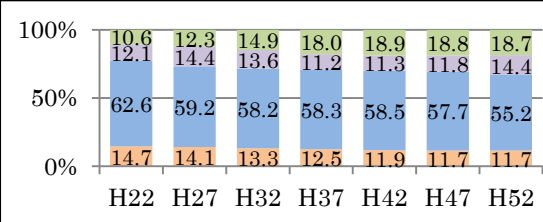
【総社市】



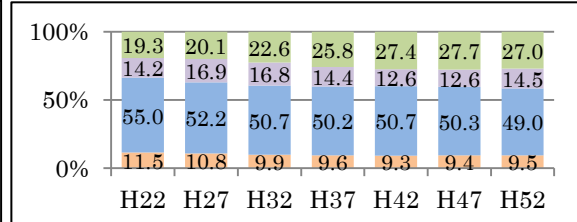
【早島町】



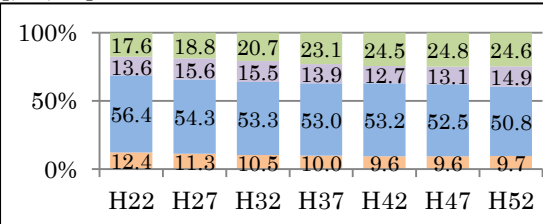
【倉敷市】



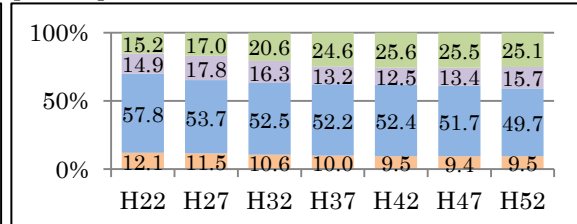
【矢掛町】



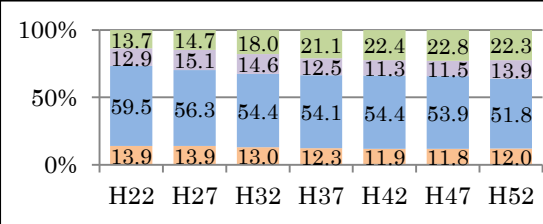
【井原市】



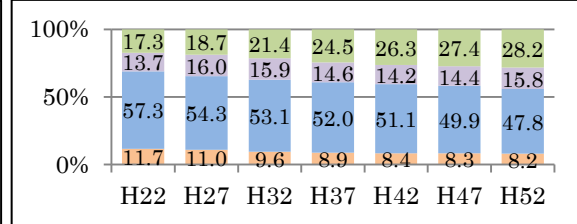
【浅口市】



【里庄町】



【笠岡市】

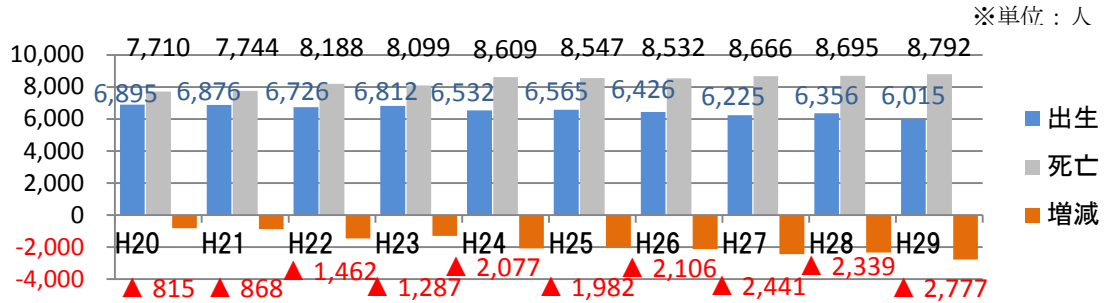


H52 までに圏域全体の年少人口は 13.7%から 11.1%に 2.6 ポイント減少、生産年齢人口も 60.7%から 53.6%に 7.1 ポイント減少、老年人口は 25.6%から 35.3%へ 9.7 ポイント上昇。

●人口動態の状況

〈自然動態の状況〉

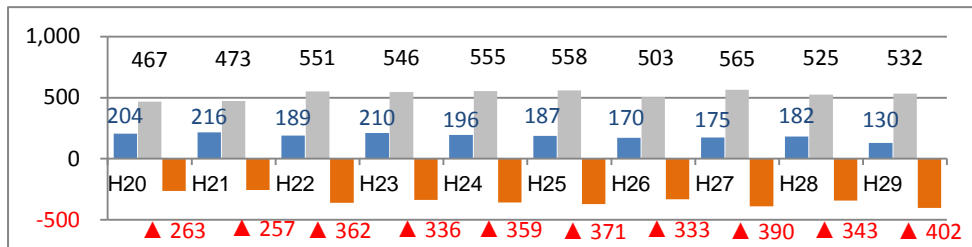
〔圏域全体〕



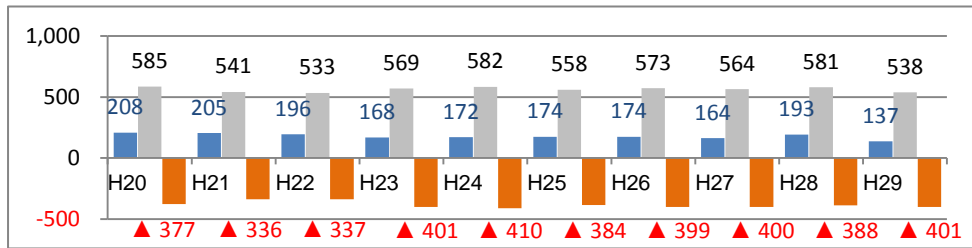
※岡山県毎月流動人口調査（市町村別・毎年1～12月計）より

※自然動態「増減」は、「出生数」－「死亡数」

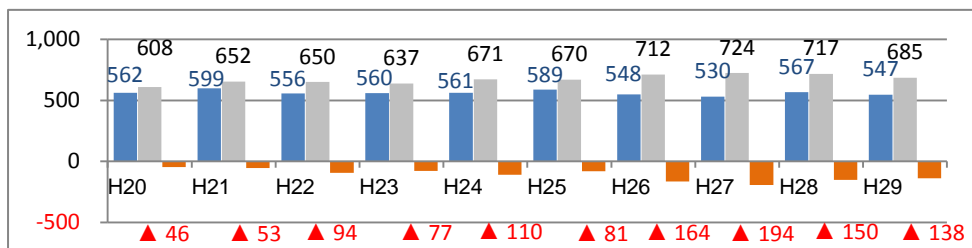
【新見市】



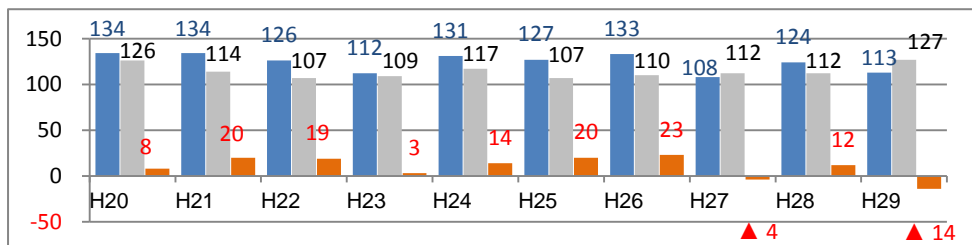
【高梁市】



【総社市】

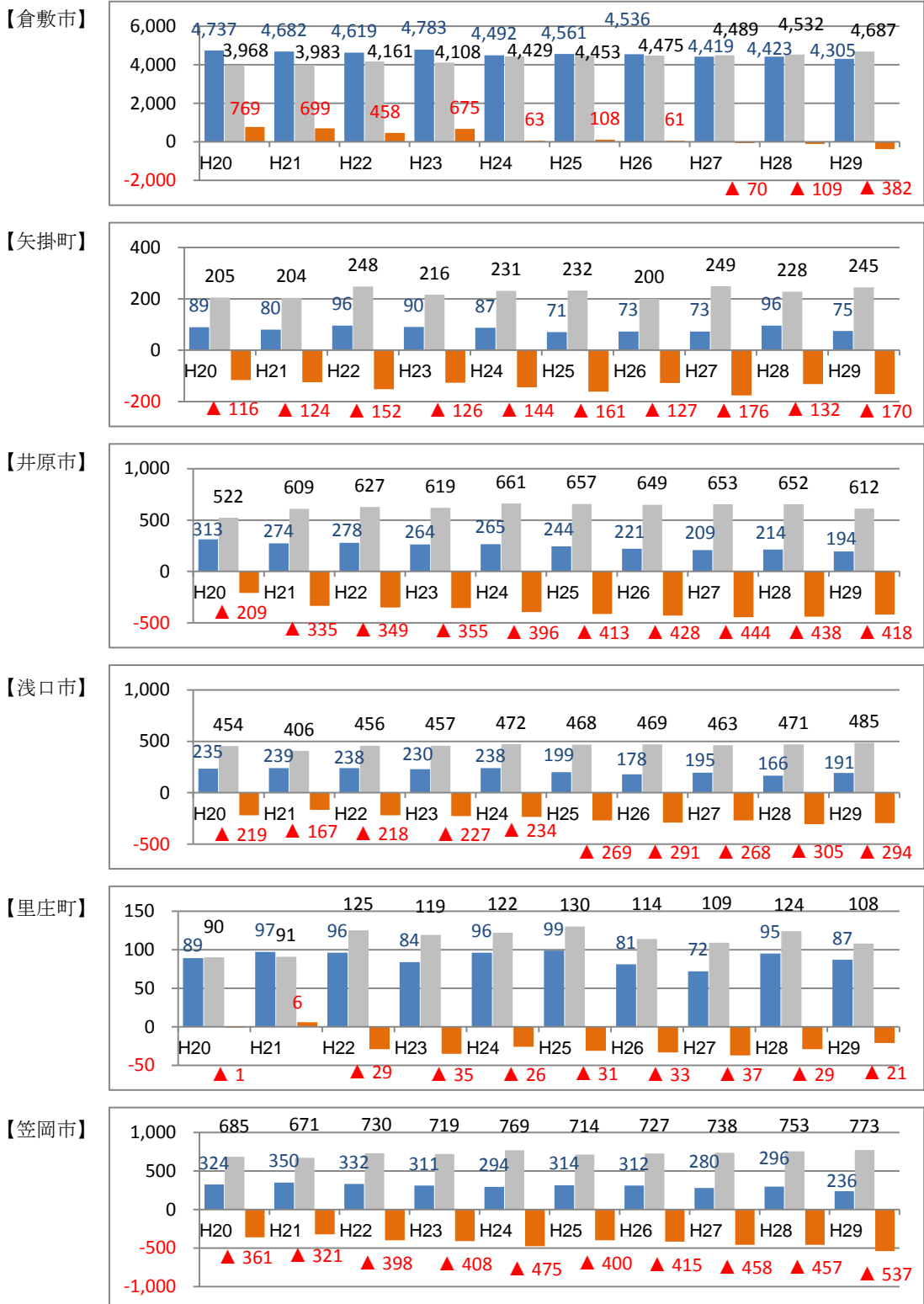


【早島町】



2. 高梁川流域圏の現状と将来像

※単位：人



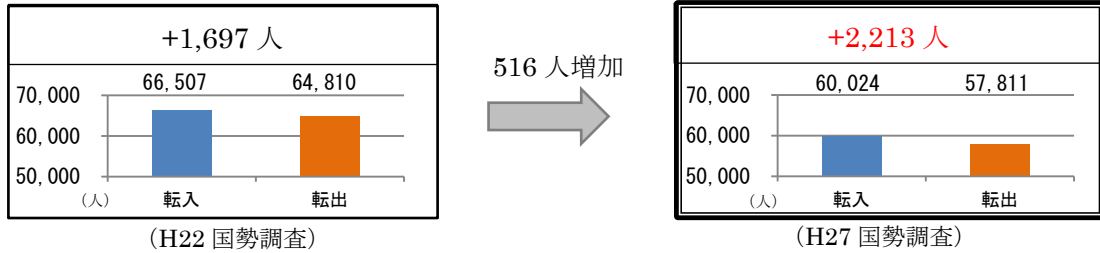
平成 28 年に自然減が 102 人抑制されたが、平成 29 年には 438 人に拡大した。早島町がプラスからマイナスに転じ、全市町がマイナスとなった。

圏域全体の自然動態は、平成 20 年の▲815 人から平成 29 年には▲2,777 人に減少した。中期目標（平成 32 年）の▲2,114 人に対して▲663 人となっている。

2. 高梁川流域圏の現状と将来像

〈社会動態の状況〉

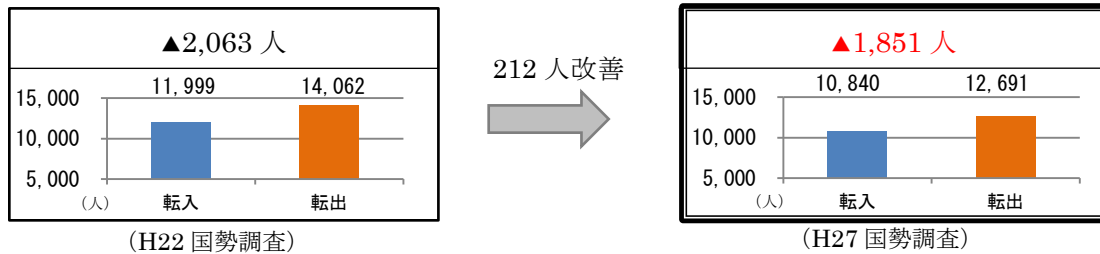
〔圏域全体〕



※H27(H22)と H22(H17)の調査結果比較による5年間での他自治体への移動数

※社会動態「増減」は、「転入者数」－「転出者数」

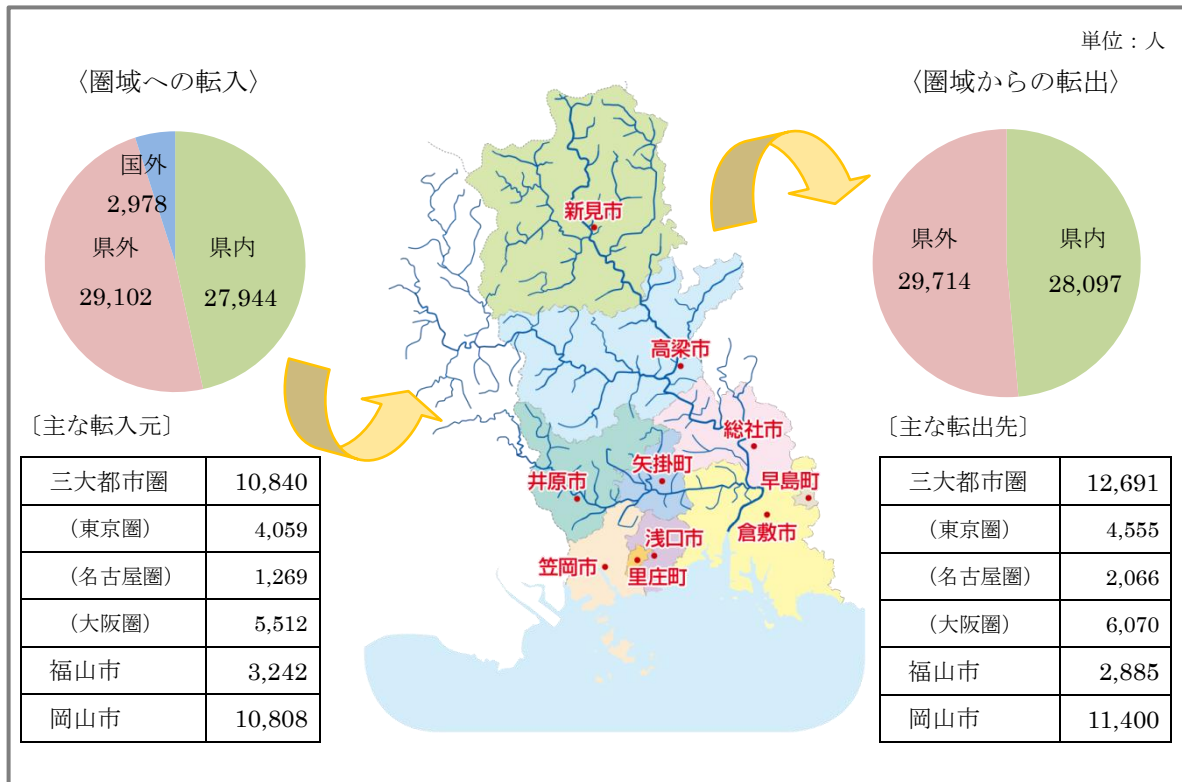
〔対三大都市圏〕



※三大都市圏 〔東京圏〕 東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県

〔名古屋圏〕 愛知県・岐阜県・三重県

〔大阪圏〕 大阪府・京都府・兵庫県



2. 高梁川流域圏の現状と将来像

〔転入・転出（市町別内訳）〕

【高梁川流域圏内の状況】

(人)

	転入元 ※上段はH27、下段はH22 国勢調査の数値、()はH22からの増減										転入 合計①
	新見市	高梁市	総社市	早島町	倉敷市	矢掛町	井原市	浅口市	里庄町	笠岡市	
新見市	77	55	4	151	2	16	9	2	12	328	
	120 (▲43)	42 (+13)	3 (+1)	157 (▲6)	1 (+1)	21 (▲5)	4 (+5)	1 (+1)	8 (+4)	357 (▲29)	
高梁市	164	180	9	252	11	58	11	8	18	711	
	168 (▲4)	152 (+28)	9 (-)	276 (▲24)	7 (+4)	50 (+8)	17 (▲6)	0 (+8)	20 (▲2)	699 (+12)	
総社市	139	377	24	1,497	44	69	38	5	31	2,224	
	130 (+9)	447 (▲70)	26 (▲2)	1,607 (▲110)	41 (+3)	92 (▲23)	52 (▲14)	6 (▲1)	34 (▲3)	2,435 (▲211)	
早島町	2	15	28	484	5	7	7	4	5	557	
	2 (-)	13 (+2)	45 (▲17)	570 (▲86)	5 (-)	13 (▲6)	13 (▲6)	2 (+2)	3 (+2)	666 (▲109)	
倉敷市	301	402	1,320	498	269	341	909	146	543	4,729	
	375 (▲74)	595 (▲193)	1,709 (▲389)	511 (▲13)	271 (▲2)	348 (▲7)	1,055 (▲146)	139 (+7)	595 (▲52)	5,598 (▲869)	
矢掛町	2	11	39	2	259	139	31	14	62	559	
	5 (▲3)	17 (▲6)	54 (▲15)	4 (▲2)	278 (▲19)	136 (+3)	36 (▲5)	18 (▲4)	67 (▲5)	615 (▲56)	
井原市	6	49	35	2	242	103	49	26	214	726	
	13 (▲7)	56 (▲7)	50 (▲15)	7 (▲5)	272 (▲30)	149 (▲46)	55 (▲6)	11 (+15)	263 (▲49)	876 (▲150)	
浅口市	6	16	33	14	746	25	99	166	265	1,370	
	12 (▲6)	11 (+5)	35 (▲2)	0 (+14)	838 (▲92)	32 (▲7)	81 (+18)	156 (+10)	292 (▲27)	1,457 (▲87)	
里庄町	3	2	5	5	154	11	31	178	382	771	
	1 (+2)	6 (▲4)	10 (▲5)	0 (+5)	184 (+30)	2 (+9)	13 (+18)	201 (▲23)	351 (+31)	768 (+3)	
笠岡市	9	17	39	6	366	81	266	240	178	1,202	
	19 (▲10)	31 (▲14)	43 (▲4)	8 (▲2)	395 (▲29)	81 (-)	291 (▲25)	221 (+19)	192 (▲14)	1,281 (▲79)	
転出	632	966	1,734	564	4,151	551	1,026	1,472	549	1,532	
合計②	725 (▲93)	1,296 (▲330)	2,140 (▲406)	568 (▲4)	4,577 (▲426)	589 (▲38)	1,045 (▲19)	1,654 (▲182)	525 (+24)	1,633 (▲101)	
社会 動態 (圏域内)	▲304	▲255	490	▲7	578	8	▲300	▲102	222	▲330	
①-②	▲368 (+64)	▲597 (+342)	295 (+195)	98 (▲105)	1,021 (▲443)	26 (▲18)	▲169 (▲131)	▲197 (+95)	243 (▲21)	▲352 (+22)	

- ・圏域内の社会動態（転入－転出）では、総社市・倉敷市・矢掛町・里庄町が転入超過となっている。
- ・前回(H22 調査) に比し、新見市・高梁市・総社市・浅口市・笠岡市の社会動態が改善している。

2. 高梁川流域圏の現状と将来像

【県内・県外の状況】

(人)

	転入元 ※上段は H27、下段は H22 国勢調査の数値、()は H22 からの増減									転入 合計④
	県内計	圏域内	岡山市	県外計	東京圏	名古屋圏	大阪圏	福山市	国外	
新見市	787	328	307	997	107	34	246	38	134	1,918
	929 (▲142)	357 (▲29)	352 (▲45)	1,121 (▲124)	87 (+20)	25 (+9)	326 (▲80)	30 (+8)	154 (▲20)	2,204 (▲286)
高梁市	1,323	711	350	1,622	164	32	341	70	379	3,324
	1,411 (▲88)	699 (+12)	416 (▲66)	1,759 (▲137)	127 (+37)	56 (▲24)	332 (+9)	78 (▲8)	416 (▲37)	3,586 (▲262)
総社市	4,061	2,224	1,377	2,177	343	113	518	94	264	6,502
	4,233 (▲172)	2,435 (▲211)	1,337 (+40)	2,376 (▲199)	297 (+46)	135 (▲22)	609 (▲91)	84 (+10)	290 (▲26)	6,899 (▲397)
早島町	1,108	557	454	291	33	25	62	17	13	1,412
	1,288 (▲180)	666 (▲109)	534 (+20)	426 (▲135)	40 (▲7)	27 (▲2)	127 (▲65)	21 (▲4)	12 (+1)	1,726 (▲314)
倉敷市	14,917	4,729	7,507	19,398	2,944	917	3,621	1,157	1,402	35,717
	16,004 (▲1,087)	5,598 (▲869)	7,530 (▲23)	22,096 (▲2,698)	2,961 (▲17)	940 (▲23)	4,305 (▲684)	1,178 (▲21)	1,687 (▲285)	39,787 (▲4,070)
矢掛町	692	559	109	284	25	11	82	55	132	1,108
	759 (▲67)	615 (▲56)	117 (▲8)	288 (▲4)	41 (▲16)	5 (+6)	94 (▲12)	49 (+6)	129 (+3)	1,176 (▲68)
井原市	988	726	181	1,389	131	41	214	625	337	2,714
	1,163 (▲175)	876 (▲150)	203 (▲22)	1,509 (▲120)	113 (+18)	29 (+12)	233 (▲19)	722 (▲93)	341 (▲4)	3,013 (▲299)
浅口市	1,629	1,370	188	868	138	50	142	197	56	2,553
	1,871 (▲242)	1,457 (▲87)	293 (▲105)	933 (▲65)	122 (+16)	32 (+18)	204 (▲62)	189 (+8)	86 (▲30)	2,890 (▲337)
里庄町	864	771	68	325	33	7	46	133	104	1,293
	847 (+17)	768 (+3)	46 (+22)	389 (▲64)	43 (▲10)	7 (-)	76 (▲30)	130 (+3)	52 (+52)	1,288 (+5)
笠岡市	1,575	1,202	267	1,751	141	39	240	856	157	3,483
	1,710 (▲135)	1,281 (▲79)	299 (▲32)	2,076 (▲325)	197 (▲56)	32 (+7)	377 (▲137)	845 (+11)	152 (+5)	3,938 (▲455)
圏域 合計③	27,944	13,177	10,808	29,102	4,059	1,269	5,512	3,242	2,978	60,024
	30,215 (▲2,271)	14,752 (▲1,575)	11,127 (▲319)	32,973 (▲3,871)	4,028 (+31)	1,288 (▲19)	6,683 (▲1,171)	3,326 (▲84)	3,319 (▲341)	66,507 (▲6,483)

2. 高梁川流域圏の現状と将来像

(人)

	転出先 ※上段は H27、下段は H22 国勢調査の数値、()は H22 からの増減								転出 合計⑥	社会 動態 (市町別) ④-⑥
	県内計	圏域内	岡山市	県外計	東京圏	名古屋 圏	大阪圏	福山市		
新見市	1,404	632	492	1,042	98	46	265	40	2,446	▲528
	1,642 (▲238)	725 (▲93)	619 (▲127)	1,200 (▲158)	104 (▲6)	47 (▲1)	312 (▲47)	44 (▲4)	2,842 (▲396)	▲638 (+110)
高梁市	1,833	966	611	1,038	115	52	248	57	2,871	453
	2,353 (▲520)	1,296 (▲330)	697 (▲86)	1,633 (▲595)	154 (▲39)	53 (▲1)	367 (▲119)	75 (▲18)	3,986 (▲1,115)	▲400 (+853)
総社市	3,244	1,734	1,160	2,093	390	170	505	46	5,337	1,165
	4,017 (▲773)	2,140 (▲406)	1,541 (▲381)	2,496 (▲403)	428 (▲38)	168 (+2)	693 (▲188)	78 (▲32)	6,513 (▲1,176)	386 (+779)
早島町	1,016	564	384	360	52	20	87	21	1,376	36
	1,030 (▲14)	568 (▲4)	386 (▲2)	386 (▲26)	44 (+8)	33 (▲13)	88 (▲1)	22 (▲1)	1,416 (▲40)	310 (▲274)
倉敷市	13,758	4,151	7,417	19,718	3,404	1,532	4,077	931	33,476	2,241
	15,169 (▲1,411)	4,577 (▲426)	8,565 (▲1,148)	21,486 (▲1,768)	3,683 (▲279)	1,320 (+212)	4,563 (▲486)	942 (▲11)	36,655 (▲3,179)	3,132 (▲891)
矢掛町	775	551	172	370	45	14	71	66	1,145	▲37
	786 (▲11)	589 (▲38)	166 (+6)	363 (+7)	40 (+5)	16 (▲2)	77 (▲6)	67 (▲1)	1,149 (▲4)	27 (▲64)
井原市	1,451	1,026	339	1,567	122	43	224	658	3,018	▲304
	1,555 (▲104)	1,045 (▲19)	400 (▲61)	1,780 (▲213)	182 (▲60)	66 (▲23)	308 (▲84)	627 (+31)	3,335 (▲317)	▲322 (+18)
浅口市	1,872	1,472	309	1,034	116	83	191	181	2,906	▲353
	2,074 (▲202)	1,654 (▲182)	304 (+5)	1,101 (▲67)	141 (▲25)	50 (+33)	221 (▲30)	154 (+27)	3,175 (▲269)	▲285 (▲68)
里庄町	667	549	86	335	36	16	61	86	1,002	291
	620 (+47)	525 (+24)	78 (+8)	396 (▲61)	65 (▲29)	28 (▲12)	72 (▲11)	66 (+20)	1,016 (▲14)	272 (+19)
笠岡市	2,077	1,532	430	2,157	177	90	341	799	4,234	▲751
	2,203 (▲126)	1,633 (▲101)	451 (▲21)	2,520 (▲363)	224 (▲47)	84 (+6)	431 (▲90)	956 (▲157)	4,723 (▲489)	▲785 (+34)
圏域 合計⑤	28,097	13,177	11,400	29,714	4,555	2,066	6,070	2,885	57,811	2,213
	31,449 (▲3,352)	14,752 (▲1,575)	13,207 (▲1,807)	33,361 (▲3,647)	5,065 (▲510)	1,865 (+201)	7,132 (▲1,062)	3,031 (▲146)	64,810 (▲6,999)	1,697 (+516)
社会 動態 (対象 地域別) ③-⑤	▲153	—	▲592	▲612	▲496	▲797	▲558	357		
	▲1,234 (+1,081)	—	▲2,080 (+1,488)	▲388 (▲224)	▲1,037 (+541)	▲577 (▲220)	▲449 (▲109)	295 (+62)		

- ・圏域全体では、**2,213 人の転入超**となり、前回に比し**516 人の増加**となった。
- ・東京圏・名古屋圏・大阪圏への転出者数は**12,691 人**で、転出者全体の**21.9%**を占め、約**5 人に 1 人**が三大都市圏に転出している。
- ・三大都市圏との社会動態は、東京圏で**496 人**、名古屋圏で**797 人**、大阪圏で**558 人**、合計**1,851 人の転出超**となり、前回に比し**212 人の改善**（転出減少）となった。
- ・市町別では、高梁市と総社市は、前回に比し社会動態が大幅に改善している。

2. 高梁川流域圏の現状と将来像

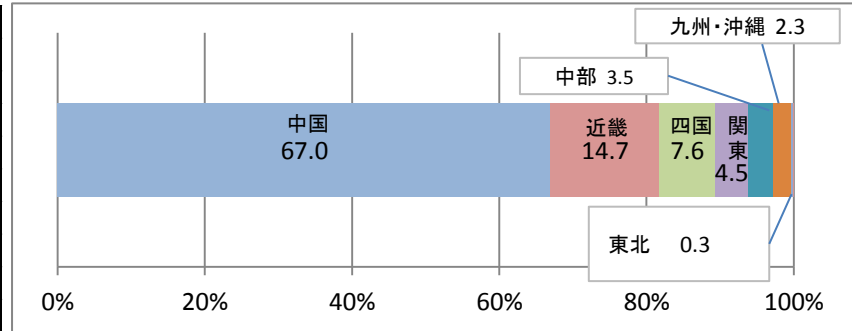
●観光動態の状況 ※ビッグデータを活用した動態調査結果

※データ利用期間：2016年7月1日～2017年6月30日 ※動態観測が可能な対象ユーザ数：57,665人
 ※動態観測対象：圏域内に60分以上滞在した人（圏域内の居住者、圏域内への通勤者、7泊以上の宿泊者除く）
 ※ウェイトバック補正処理のため来訪者数を単純合計した値は、合計来訪者数やパーセンテージと一致しない場合あり
 ※「高梁川流域圏観光動態調査レポート KDDI×コプロ」〔平成30年3月30日〕

①圏域来訪者〔地域・都道府県別 発地者数、構成比〕

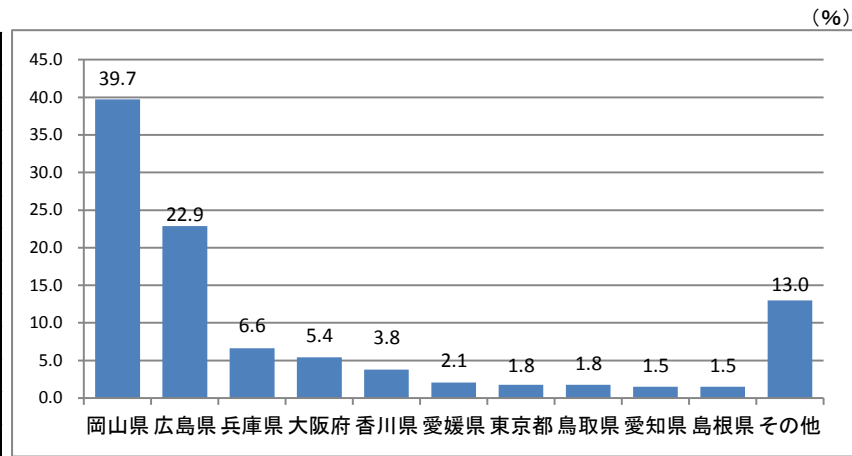
(人・%)

順位	地域名	来訪者数	構成比
1	中国	38,615	67.0
2	近畿	8,471	14.7
3	四国	4,400	7.6
4	関東	2,575	4.5
5	中部	2,032	3.5
6	九州・沖縄	1,350	2.3
7	東北	147	0.3
8	北海道	76	0.1
合計		57,665	100.0



(人・%)

順位	都道府県名	来訪者数	構成比
1	岡山県	22,899	39.7
2	広島県	13,197	22.9
3	兵庫県	3,816	6.6
4	大阪府	3,129	5.4
5	香川県	2,174	3.8
6	愛媛県	1,183	2.1
7	東京都	1,024	1.8
8	鳥取県	1,016	1.8
9	愛知県	876	1.5
10	島根県	858	1.5
—	その他	7,493	13.0
合計		57,665	100.0



- ・中国地方、近畿地方からの来訪者が、全体の79.4%を占める。
- ・中国地方は、岡山県（高梁川流域圏以外）、広島県の順に多く、近畿地方は、兵庫県、大阪府の順に来訪者が多い。
- ・関東地方からの来訪者は、全体の4.5%ではあるが、地域別では第4位となっている。

②圏域来訪者〔性別・年齢層別 来訪者数、構成比〕

(人・%)

	男性					女性				
	合計	10～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	合計	10～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上
来訪者数	28,823	7,654	4,968	5,854	10,346	28,843	7,561	4,787	5,557	10,938
構成比	50.0	13.3	8.6	10.2	17.9	50.0	13.1	8.3	9.6	19.0

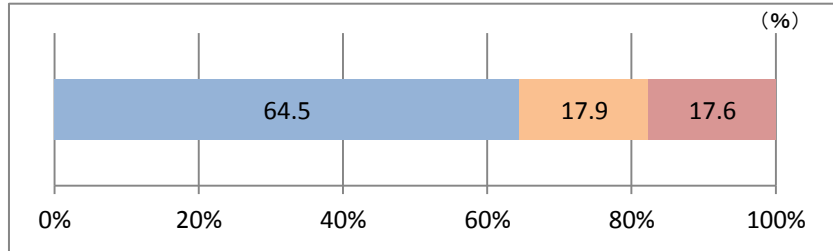


- ・圏域来訪者の性別では、前回から女性の割合が2.9%増加し男女の構成比が同率となり、年齢層別では、男性女性とも50歳以上の割合が最も高く、次いで10～29歳となっている。

2. 高梁川流域圏の現状と将来像

③圏域来訪者〔泊数別 来訪者数、構成比〕

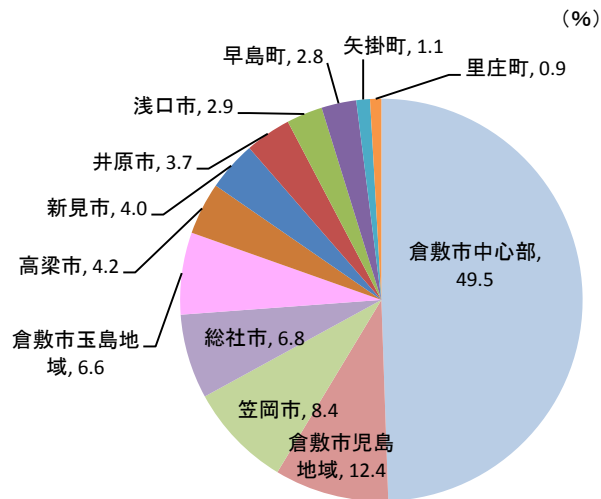
泊数	来訪者数 (人)	構成比 (%)
日帰り	37,189	64.5
1泊	10,340	17.9
2泊以上	10,137	17.6
合計	57,665	100.0



・圏域来訪者の泊数別では、**来訪者の約6割が日帰り**で圏域を訪れている。

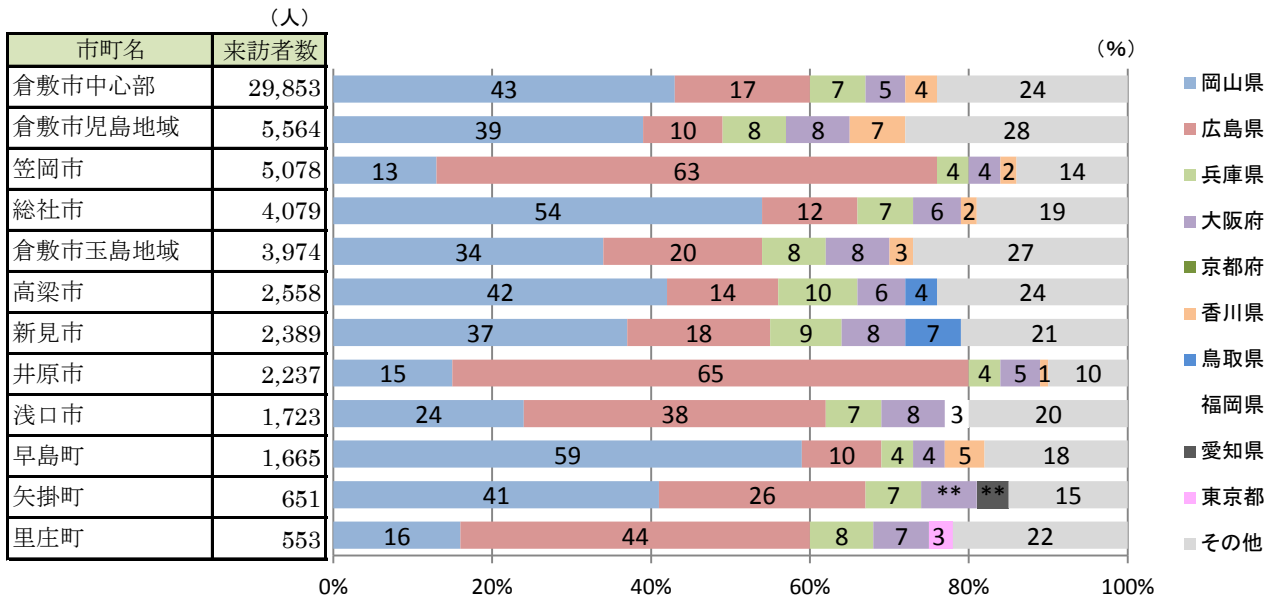
④圏域来訪者〔市町別〕

市町名	来訪者数 (人)	構成比 (%)
倉敷市中心部	29,853	49.5
倉敷市児島地域	5,564	9.2
笠岡市	5,078	8.4
総社市	4,079	6.8
倉敷市玉島地域	3,974	6.6
高梁市	2,558	4.2
新見市	2,389	4.0
井原市	2,237	3.7
浅口市	1,723	2.9
早島町	1,665	2.8
矢掛町	651	1.1
里庄町	533	0.9



・市町別の来訪者数は、**来訪者の約半数が倉敷市中心部を訪れ**、次いで、倉敷市児島地区、笠岡市、総社市の順となっている。

⑤圏域来訪者〔市町別発地構成比（発地都道府県別）〕



・各市町への来訪者の発地都道府県構成は、井原市・浅口市・里庄町・笠岡市が広島県から、それ以外の市町は岡山県内が最も多い。

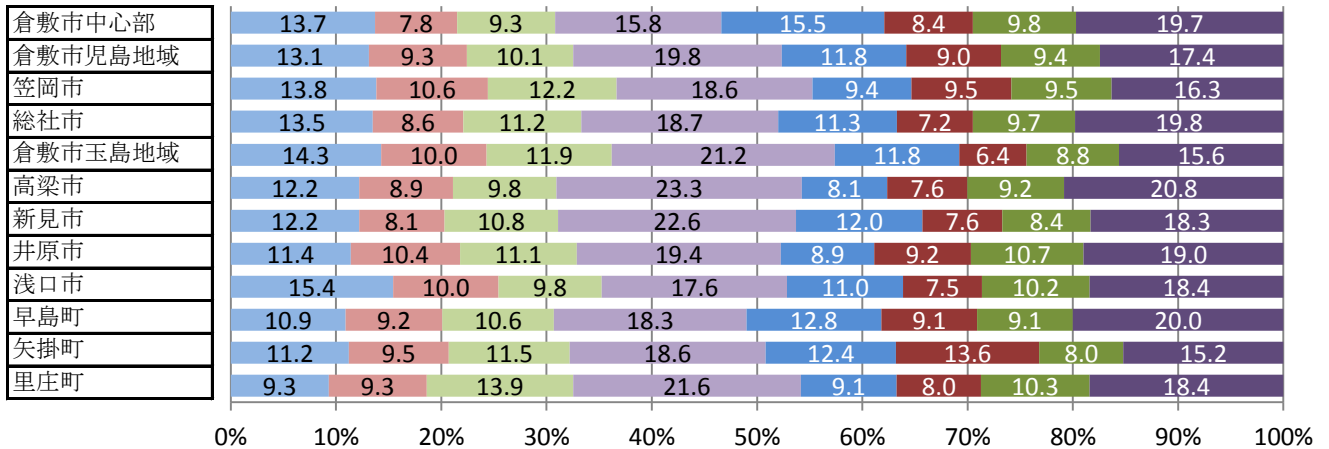
2. 高梁川流域圏の現状と将来像

⑥圏域来訪者〔市町別 性別・年齢層別 来訪者数、構成比〕

(%)

市町名	男性					女性				
	合計	10～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	合計	10～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上
倉敷市中心部	46.6	13.7	7.8	9.3	15.8	53.4	15.5	8.4	9.8	19.7
倉敷市児島地域	52.3	13.1	9.3	10.1	19.8	47.6	11.8	9.0	9.4	17.4
笠岡市	55.2	13.8	10.6	12.2	18.6	44.7	9.4	9.5	9.5	16.3
総社市	52.0	13.5	8.6	11.2	18.7	48.0	11.3	7.2	9.7	19.8
倉敷市玉島地域	57.4	14.3	10.0	11.9	21.2	42.6	11.8	6.4	8.8	15.6
高梁市	54.2	12.2	8.9	9.8	23.3	45.7	8.1	7.6	9.2	20.8
新見市	53.7	12.2	8.1	10.8	22.6	46.3	12.0	7.6	8.4	18.3
井原市	52.3	11.4	10.4	11.1	19.4	47.8	8.9	9.2	10.7	19.0
浅口市	52.8	15.4	10.0	9.8	17.6	47.1	11.0	7.5	10.2	18.4
早島町	49.0	10.9	9.2	10.6	18.3	51.0	12.8	9.1	9.1	20.0
矢掛町	50.8	11.2	9.5	11.5	18.6	49.2	12.4	13.6	8.0	15.2
里庄町	54.1	9.3	9.3	13.9	21.6	45.8	9.1	8.0	10.3	18.4

(%)



- ・女性来訪者が50%を超えているのは「倉敷市中心部・早島町」のみ。「倉敷市玉島地域」「高梁市」はシニア層（50歳以上）、「矢掛町」「笠岡市」は若年層（10～49歳）の構成比が高い。
- ・前回調査に比べてすべての観光エリアで女性の割合が増加した。

⑦圏域来訪者〔全体・市町別滞在時間（昼間）〕

順位	市町名	来訪者数（人）	昼間 平均滞在時間（h）		
			全体	日帰り	宿泊
1	矢掛町	651	4:34	3:03	7:14
2	高梁市	2,558	4:28	2:52	6:21
3	新見市	2,389	4:15	3:01	5:40
4	井原市	2,237	4:03	2:54	7:13
5	倉敷市中心部	29,853	3:43	2:49	5:15
6	総社市	4,079	3:40	2:48	5:13
7	倉敷市玉島地域	3,974	3:36	2:45	4:28
8	浅口市	1,723	3:30	2:36	4:48
9	倉敷市児島地域	5,564	3:29	2:40	4:22
10	笠岡市	5,078	3:24	2:44	4:51
11	里庄町	533	3:20	2:39	4:04
12	早島町	1,665	2:51	2:33	3:32
圏域全体		60,304	3:42	2:47	5:08

※来訪者数は、9:00～20:59の間に市町に滞在した来訪者。

- ・来訪者が圏域内に滞在する時間の平均は3時間42分で、前回調査（3時間44分）から横ばい。
- ・宿泊者の平均滞在時間（5時間08分）は、日帰り者の平均滞在時間（2時間47分）の約1.9倍である。
- ・全体の滞在時間は矢掛町・高梁市の順で滞在時間が長く、日帰りのみでは矢掛町・新見市の順で滞在時間が長い。また、宿泊のみでは矢掛町・井原市の順で長くなっている。

2. 高梁川流域圏の現状と将来像

⑧圏域来訪者〔市町別平均周遊箇所数〕

順位	市町名	(人)	(%)	(箇所)
		来訪者数	1箇所のみ来訪者率	平均周遊箇所数
1	里庄町	533	65.3	1.40
2	矢掛町	651	69.0	1.37
3	倉敷市玉島地域	3,974	73.5	1.30
4	浅口市	1,723	75.8	1.28
5	総社市	4,079	80.3	1.23
6	早島町	1,665	80.7	1.22
7	倉敷市児島地域	5,564	80.5	1.22
8	高梁市	2,558	83.1	1.19
9	井原市	2,237	85.3	1.17
10	笠岡市	5,078	88.6	1.14
11	倉敷市中心部	29,853	90.1	1.11
12	新見市	2,389	91.2	1.10
圏域全体				1.08

- ・来訪者の平均周遊箇所数は**1.08箇所**で、前回調査(1.07箇所)から横ばい。
- ・里庄町、矢掛町、倉敷市玉島地域、浅口市の来訪者は他エリアへの周遊傾向が強い。対照的に、笠岡市、倉敷市中心部、新見市への来訪者は周遊傾向が弱い。

⑨圏域来訪者〔周遊ルートランキング (TOP 20) 〕

(人・%)

順位	周遊ルート	全体	男性	女性	29歳以下	30～49歳	50歳以上
		4,116	2,186	1,930	1,060	1,560	1,496
1	倉敷市中心部⇔倉敷市児島地域	20.9	19.9	22.1	21.3	20.4	21.3
2	倉敷市中心部⇔倉敷市玉島地域	15.0	15.8	14.2	18.2	14.4	13.4
3	倉敷市中心部⇔総社市	10.0	9.7	10.3	10.6	9.4	10.2
4	倉敷市中心部⇔早島町	5.9	6.0	5.8	5.5	6.6	5.5
5	倉敷市中心部⇔高梁市	3.4	2.8	4.1	3.3	-	-
6	倉敷市中心部⇔笠岡市	3.4	3.6	3.2	-	-	2.8
7	倉敷市中心部⇔浅口市	2.9	-	-	4.5	2.2	2.5
8	笠岡市⇔井原市	2.5	3.1	1.8	2.1	2.3	2.9
9	総社市⇔高梁市	2.0	2.0	2.0	1.0	2.2	2.6
10	笠岡市⇔浅口市	1.7	1.5	2.0	-	2.5	-
11	倉敷市玉島地域⇔総社市	-	1.9	-	-	-	1.7
12	高梁市⇔新見市	1.6	1.5	1.8	1.4	1.3	2.2
13	倉敷市中心部⇔新見市	1.6	1.4	1.8	2.2	1.3	1.5
14	倉敷市玉島地域⇔浅口市	-	1.7	-	-	-	1.8
15	笠岡市⇔里庄町	1.3	1.3	1.4	-	1.6	-
16	倉敷市中心部⇔井原市	-	-	1.4	-	1.3	-
17	浅口市⇔里庄町	1.3	0.9	1.7	1.5	1.2	1.2
18	倉敷市玉島地域⇔笠岡市	-	1.4	-	-	1.2	-
19	倉敷市中心部⇔矢掛町	1.0	1.1	1.0	1.4	0.9	0.9
20	倉敷市児島地域⇔倉敷市玉島地域	1.0	1.3	0.7	1.6	-	-
	その他	18.7	19.3	18.0	15.1	20.0	19.8

- ・TOP 20の周遊ルートのうち、10の周遊ルートに「倉敷市中心部」が含まれていることから、「**倉敷市中心部**」が**圏域内周遊のハブ**となっている。

●統計指標

(所、人、百万円)

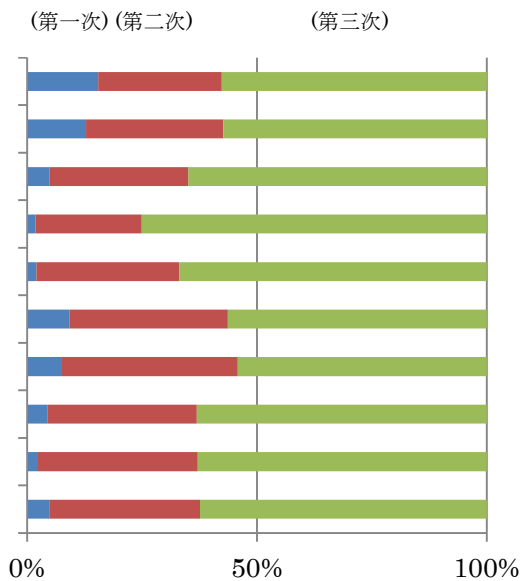
市町名	農 業		工 業			商 業		
	農家数	産出額	事業所数	従業者数	出荷額等	事業所数	従業員数	商品販売額
新見市	3,414	10,660	69	2,089	86,728	387	1,968	38,596
高梁市	3,212	7,410	64	4,020	142,320	431	2,086	36,290
総社市	2,707	2,930	135	8,884	237,565	441	3,316	73,212
早島町	169	170	16	424	7,726	115	1,249	142,006
倉敷市	6,644	10,310	741	35,858	3,383,127	3,634	29,479	943,626
矢掛町	1,366	1,620	54	1,824	39,180	169	817	11,431
井原市	2,427	9,570	123	5,193	126,831	392	1,943	41,259
浅口市	1,529	1,190	76	2,409	48,581	251	1,655	28,783
里庄町	311	140	35	3,220	269,476	71	524	12,216
笠岡市	1,636	5,990	115	5,076	157,236	442	2,656	75,897
合計	23,415	49,990	1,428	68,997	4,498,770	6,333	45,693	1,403,316

※「農家数」：H27.2.1、「産出額」：H27、「工業」：H29 工業統計（従業者4人以上の事業所）、「商業」：H26 商業統計調査

(%)

市町名	就業人口比率		
	第一次産業	第二次産業	第三次産業
新見市	15.5	26.9	57.7
高梁市	12.8	29.9	57.3
総社市	4.9	30.2	64.9
早島町	1.8	23.1	75.0
倉敷市	2.0	31.1	66.9
矢掛町	9.2	34.4	56.3
井原市	7.4	38.5	54.2
浅口市	4.4	32.5	63.1
里庄町	2.2	34.9	62.9
笠岡市	4.8	32.8	62.3

※H27.10.1 現在



2. 高梁川流域圏の現状と将来像

主要観光地観光客数

(千人)

市町名	観光地名	観光客数				平成29年の 対前年比
		H26	H27	H28	H29	
新見市	井倉峽	298	307	281	267	95.0%
高梁市	備中松山城	210	215	231	205	88.7%
	成羽・吹屋	142	153	170	123	72.4%
総社市	吉備路・備中国分寺	485	514	499	514	103.0%
	宝福寺	307	305	274	278	101.5%
倉敷市	倉敷美観地区	3,065	3,534	3,845	3,648	94.9%
	児島・鷺羽山	1,125	1,126	1,195	1,152	96.4%
	水島	262	311	251	319	127.1%
	庄周辺	214	237	244	250	102.5%
矢掛町	矢掛本陣	227	285	288	330	114.6%
井原市	田中苑	424	440	463	420	90.7%
笠岡市	笠岡・笠岡諸島	1,226	1,266	1,274	1,260	98.9%
合計		7,985	8,693	9,015	8,766	97.2%

※岡山県観光客動態調査より

市町名	教 育						医 療			
	幼稚 園数	認定こ ども園	小学 校数	中学 校数	高等学 校数	高等教 育機関数	病院数	診療所 数	三次 救急	二次 救急
新見市	3	7	17	5	2	2	4	30		4
高梁市	11	2	15	6	5	1	4	36		3
総社市	17	1	15	4	2	1	3	48		2
早島町	1		1	1			1	10		1
倉敷市	64	7	64	28	20	11	36	352	2	22
矢掛町	4		7	1	1		2	8		1
井原市	13		14	5	3		3	30		4
浅口市	4	2	8	4	3		2	20		1
里庄町	2		2	1			1	5		
笠岡市	12		18	10	4		5	42		4
合計	131	19	161	65	40	15	61	581	2	42

※園・校数は、H29.5.1 現在（公立及び私立）。「高等教育機関」は、大学・短大等

※「病院数」「診療所数」は、H28.10.1 現在。「三次救急」「二次救急」は、H29.4.1 現在

※「二次救急」は、病院群輪番制・協力病院当番制・その他救急告示病院等の病院等

2. 高梁川流域圏の現状と将来像

市町名	福 祉					
	保育所		養老		特老	
	施設数	定員	施設数	定員	施設数	定員
新見市	6	445	1	50	5	370
高梁市	7	460	2	100	10	456
総社市	14	1,325	1	50	8	399
早島町	3	400			1	80
倉敷市	89	10,305	2	180	36	1,933
矢掛町	4	330			2	70
井原市	9	765	1	50	7	389
浅口市	5	435			2	160
里庄町	2	320				
笠岡市	16	1,275	1	60	6	409
合計	155	16,060	8	490	77	4,266

※数値は全て H29.10.1 現在

●各自治体の地域指定の状況

	山振	特農	低开	過疎	農工	特土	離島	豪雪	辺地	電源
新見市	●	●	●	●	●			●	●	●
高梁市	●	●	●	●	●				●	●
総社市	●	●				●			●	
早島町										
倉敷市						●	●			
矢掛町	●	●		●	●	●			●	
井原市	●	●		●	●	●			●	
浅口市		●		●	●	●				
里庄町						●				
笠岡市		●				●	●		●	

※H30.4.1 現在

2. 高梁川流域圏の現状と将来像

●圏域内自治体連携の状況（圏域内で複数自治体が連携しているものを記載）

- 〔農林業〕 八ヶ郷合同用水組合（倉敷市・早島町）
高梁川東西用水組合（倉敷市・早島町）
竹川組合（倉敷市・浅口市）
湛井十二箇郷組合（倉敷市・総社市・岡山市）
井笠地区農業共済事務組合（笠岡市・井原市・浅口市・里庄町・矢掛町）
倉敷地区農業共済事務組合（倉敷市・総社市・早島町）
- 〔教育〕 岡山県笠岡市・矢掛町中学校組合（笠岡市・矢掛町）
- 〔厚生福祉〕 岡山県西部地区養護老人ホーム組合（笠岡市・浅口市・里庄町）
老人保健福祉圏域（倉敷市・総社市・笠岡市・井原市・浅口市・早島町・里庄町・矢掛町）
障害保健福祉圏域（倉敷市・新見市・高梁市・総社市・笠岡市・井原市・浅口市・早島町・里庄町・矢掛町）
- 〔水道〕 備南水道企業団（倉敷市・早島町）
岡山県西南水道企業団（笠岡市・浅口市・里庄町）
岡山県広域水道企業団（倉敷市・井原市・総社市・高梁市ほか）
- 〔ごみ処理〕 岡山県西部環境整備施設組合（笠岡市・浅口市・里庄町）
岡山県井原地区清掃施設組合（井原市・矢掛町）
倉敷西部清掃施設組合（倉敷市・浅口市）
総社広域環境施設組合（倉敷市・総社市）
早島町ごみ処理事業（倉敷市・早島町）※倉敷市が受託
- 〔し尿処理〕 備南衛生施設組合（倉敷市・早島町・岡山市）
岡山県西部衛生施設組合（笠岡市・井原市・浅口市・里庄町・矢掛町）
- 〔消防防災〕 笠岡地区消防組合（笠岡市・浅口市（一部）・里庄町）
倉敷広域消防圏（倉敷市・浅口市（一部）・早島町）※倉敷市が受託
井原地区消防組合（井原市・矢掛町）
- 〔医療〕 岡山県南西部二次医療圏（倉敷市・総社市・笠岡市・井原市・浅口市・早島町・里庄町・矢掛町）
- 〔その他〕 備南競艇事業組合（総社市・浅口市・早島町・里庄町）
高梁川流域連盟（倉敷市・新見市・高梁市・総社市・笠岡市・井原市・浅口市・早島町・里庄町・矢掛町）

2) 高梁川流域圏の将来像

高梁川流域圏では、平成 22 年から平成 52 年までの人口推移は、国立社会保障・人口問題研究所発表によると全国平均▲16.2%、岡山県平均▲17.2%を上回る▲17.6%となっており、人口減少問題がより深刻化する見込みとなっている。

圏域のこれまでの人口動態では、出生者数と死亡者数の差である自然動態について、平成 18 年 486 人の減少から更に大きく減少し、平成 25 年では出生者数 6,570 人、死亡者数 8,531 人で 1,961 人の減少となっており、平成 25 年で増加しているのは倉敷市と早島町の 2 自治体のみである。

次に、転入者数と転出者数の差である社会動態については、国勢調査によると平成 17 年から平成 22 年の 5 年間で、転入者数 66,507 人、転出者数 64,810 人で 1,697 人の増加となっているものの、圏域の半数の自治体が減少しており、流域の中上流に位置する自治体に減少が集中している。このなかで、倉敷市が 3,132 人の増加と数字を押し上げているが、三大都市圏へは、倉敷市においても 1,360 人の転出超過、圏域全体からは 2,063 人の転出超過となるなど、三大都市圏への人口流出という全国的な課題が、この圏域においても明らかになっている。

また、圏域内自治体間の社会動態では、倉敷市へ 1,021 人、総社市へ 295 人、里庄町へ 243 人など 5 自治体が転入超過する一方、高梁市から 597 人、新見市から 368 人など 5 自治体で転出超過し、全体として 14,752 人が圏域内で移動している。

圏域の各自治体では、これまでも危機感を抱き、それぞれ地域経済活性化、子育て支援や医療の充実、移住定住促進などさまざまな施策を講じてきているが、自然動態及び社会動態、いずれもその成果は十分とは言えない状況にあるものと考ええる。

このような状況を踏まえ、高梁川流域連盟で培ってきたこれまでのつながりを活かし、圏域全体の発展に向けて、以下の視点で取組を進める必要があると考えている。

- ・ 圏域内での自然動態の減少抑制を目指し、若年世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるための切れ目のない施策を推進する。
- ・ 社会動態の増加を目指し、圏域内から三大都市圏への人口流出に歯止めをかけるとともに、三大都市圏から圏域内に人・資源を呼び込む施策を推進する。

このため、連携中枢都市となる倉敷市は、圏域の経済成長のけん引役を担うとともに、圏域に必要となる都市機能を整備し、また、これにとどまることなく、生活関連機能サービス向上への取組についても積極的に推進する。また、各市町においても、圏域としての総合力を発揮するため、それぞれの個性と魅力を磨き高めていくとともに、圏域内での連携・役割分担に取り組むこととする。

また、圏域と近隣都市との間の社会動態については、岡山市に対して転入 11,127 人、転出 13,207 人で 2,080 人の転出超過、福山市とは転入 3,326 人、転出 3,031 人で 295

2. 高梁川流域圏の現状と将来像

人の転入超過となっており、合計すると圏域内における人口移動 14,752 人に匹敵する規模となっており、また、通勤通学においても両市と密接なつながりのあることが、大きな特徴となっている。こうしたことから、将来的には連携中枢都市間及び都市圏間連携への取組についても検討していくこととする。

高梁川流域の 7 市 3 町は、太古の昔から大地を潤し、緑豊かな自然を育み、郷土の歴史と文化を生み、産業を育てた“母なる川”の流れと共に豊かな暮らしの営みがあることを忘れることはなく、これまで長年に渡り流域の文化向上に寄与する取組を行ってきた。今後、これに併せて、人口減少・人口流出に歯止めをかけ、生活の利便性低下や地域経済が縮小することのないよう、次頁以下の具体的な取組を進めることで、高梁川流域圏を活力ある経済・生活圏として形成していくことを目指す。

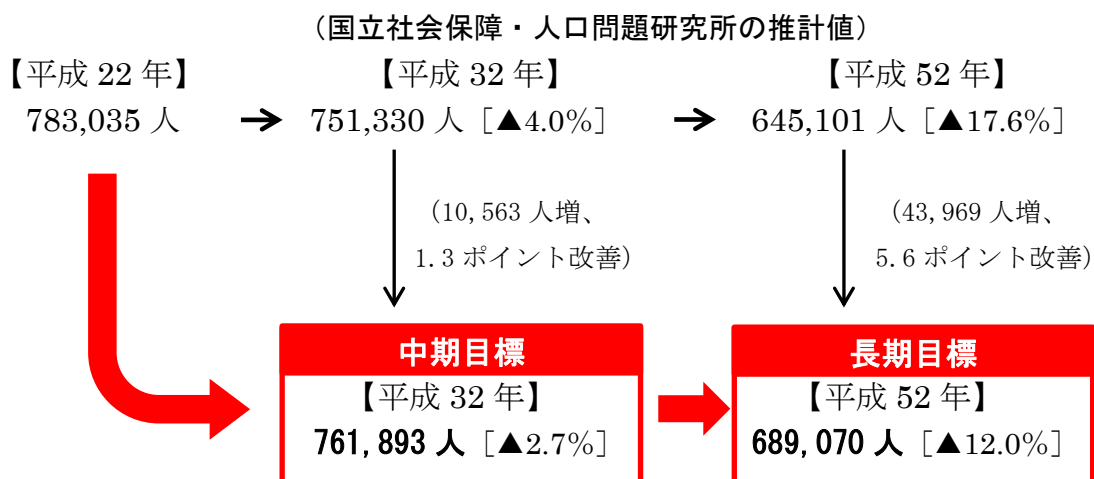
3) 将来の目標

連携中枢都市圏での取組による将来目標として、平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 年間の取組における中期目標を平成 32 年（5 年後）、及び長期目標を平成 52 年（25 年後、圏域人口のみ）に設定する。

I 圏域人口

国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」では、目指すべき将来の方向として「2060 年（平成 72 年）に 1 億人程度の人口を確保」することとしている。これは、平成 24 年 1 月に国立社会保障・人口問題研究所が示した同年の推計人口において、平成 22 年に比して 32.3%減少し、8,674 万人になるとしていたものを、21.9%の減少に抑制するものである（10.4 ポイントの改善）。これを割り戻して計算すると、平成 52 年の減少値は 5.6 ポイントの改善、平成 32 年の減少値は 1.3 ポイントの改善が必要となる。

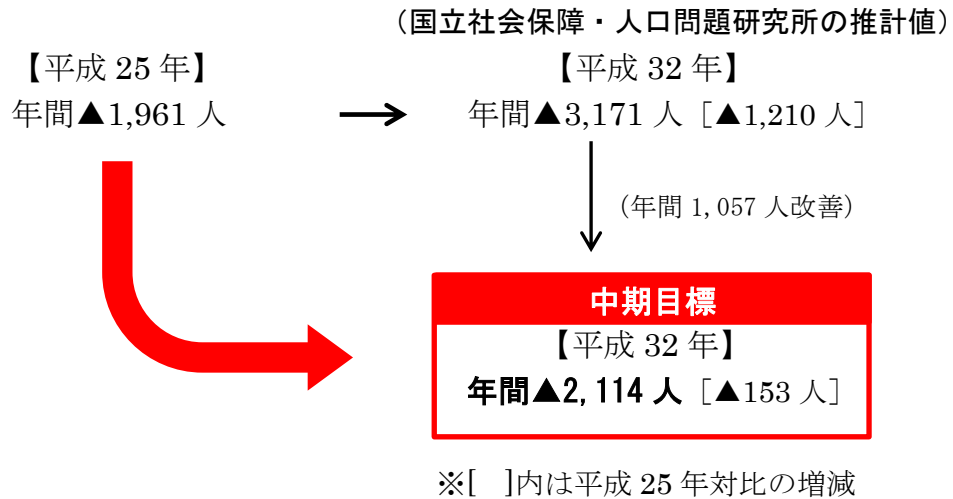
これをもとに、本圏域人口の平成 32 年の目標値を 761,893 人、平成 52 年の目標値を 689,070 人とする。



※[]内は平成 22 年対比の増減率

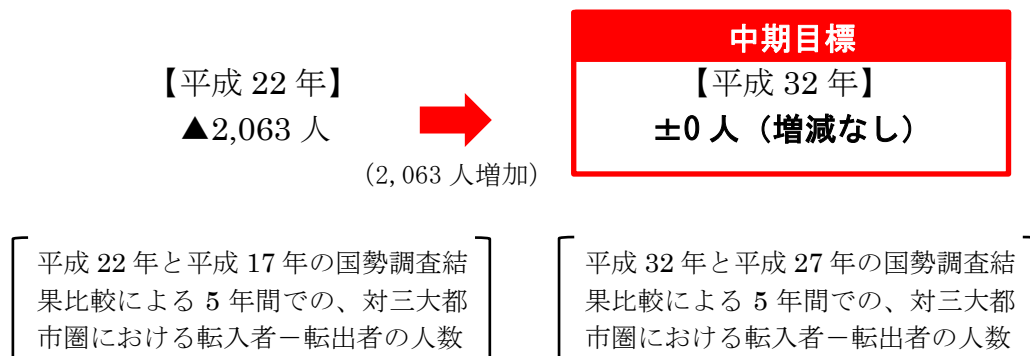
II 自然動態

前述の圏域人口の目標値を踏まえ、平成 32 年の自然動態（出生数－死亡数）の目標値を年間 2,114 人減（推計値に比し、1,057 人増）とする。



III 社会動態（圏域対三大都市圏）

国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標である「平成 32 年に地方・東京圏の転出入均衡」を踏まえ、本圏域は、東京圏よりも大阪圏への転出・転入者が多いことから、対象を三大都市圏として、平成 32 年の圏域と三大都市圏の間での社会動態の目標値を 0 人（増減なし）とする。



※三大都市圏とは、東京圏、名古屋圏、大阪圏をいう。

2. 高梁川流域圏の現状と将来像

【参考】圏域人口の「中期目標・長期目標」の算出方法

将来目標の増減率は、圏域人口推計の増減率に改善割合 0.68 を乗じて算出。

	平成 22 年	平成 32 年	平成 52 年	平成 72 年
	2010 年	2020 年	2040 年	2060 年
総人口推計 (千人)	128,057	124,100	107,276	86,737
増減率(%)※	—	▲3.1	▲16.1	①▲32.3
長期ビジョン (千人)	—	—	—	100,000
増減率(%)	—	—	—	②▲21.9
改善割合 (②/①)	—	—	—	0.68
圏域人口推計 (人)	783,035	751,330	645,101	推計値なし
③増減率(%)	—	▲4.0	▲17.6	—
将来目標 (人)	—	761,893	689,070	—
増減率(%) (③×0.68)	—	▲2.7	▲12.0	—

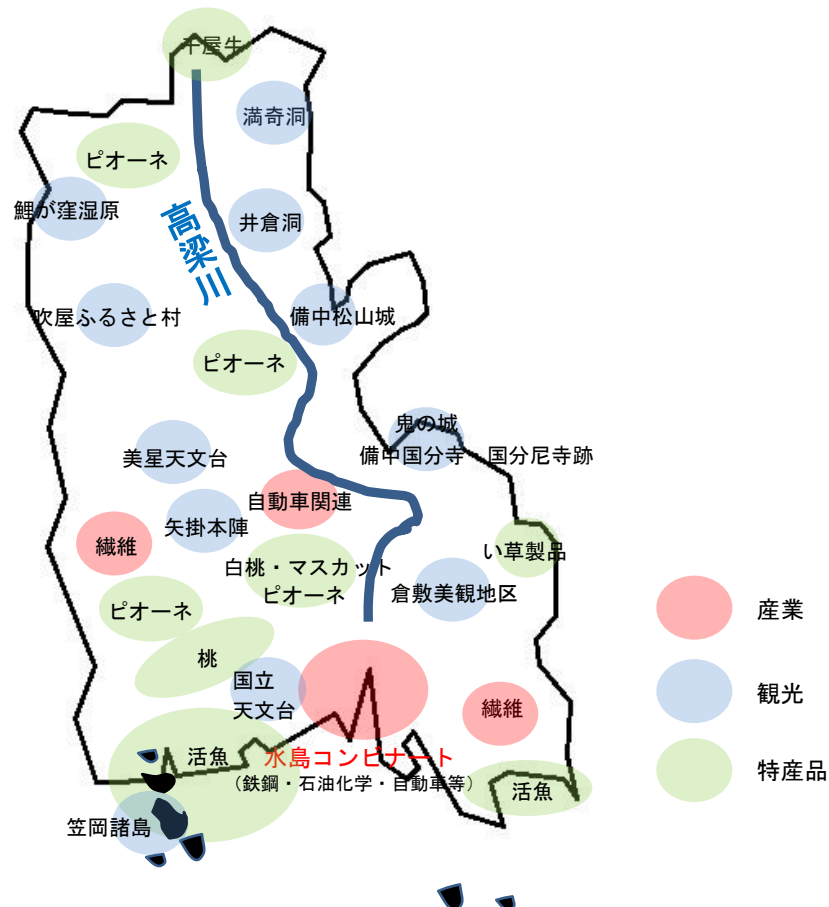
※増減率は、平成 22 年度数値との比較

3. 「圏域全体の経済成長」における具体的取組等

1) 現状

○多様な地域資源（産業・特産品・観光）が圏域内に存在している

圏域内には、石油化学、鉄鋼、自動車など岡山県の製造品出荷額の約50%を占め、国内有数の企業集積地である水島コンビナート（倉敷市）をはじめ、全国的なシェアを誇るジーンズや学生服などの繊維産業（倉敷市・井原市）が集積している。農林水産品では、全国的に有名な「い草製品」（倉敷市・早島町）、ブランド牛の「千屋牛」（新見市）、「白桃」「マスカット・オブ・アレキサンドリア」「ピオーネ」（倉敷市・新見市・高梁市・井原市）をはじめ、「活魚」「タコ」「カキ」（倉敷市・笠岡市・浅口市）など、全国展開商品から地産地消商品まで、多様な産品を有している。さらに、全国から年間約350万人の集客があり、平成24年にアジア都市景観大賞を受賞した「倉敷美観地区」（倉敷市）をはじめとする歴史的観光名所「備中国分寺・国分尼寺跡」・「作山古墳」・「鬼ノ城」（総社市）、「備中松山城」・「吹屋ふるさと村」（高梁市）、「井倉洞」・「満奇洞」・「鯉が窪湿原」（新見市）、「笠岡諸島」・「笠岡湾干拓地」（笠岡市）、「旧山陽道宿場町・矢掛本陣」（矢掛町）、「美星天文台」（井原市）、「国立天文台岡山天体物理観測所」（浅口市）などがある。また、伝統的建造物群保存地区の倉敷美観地区や高梁市吹屋地区をはじめ、倉敷市、新見市、高梁市、矢掛町には、古民家や町家など、昔ながらの町並みを残す「町並み保存地区」がある。



3. 「圏域全体の経済成長」における具体的取組等

○利便性の高い交通網を活かした企業立地と広範な商圈を有している

圏域内には、製造・物流に必要な不可欠な公共交通網として、J R山陽本線、J R伯備線、(株)井原鉄道のほか、山陽自動車道、岡山自動車道、中国自動車道、瀬戸中央自動車道の各高速道路が整備され、各自治体間を結んでいる。さらに、これら交通網は、岡山県内はもとより中国地方、四国地方の結節点となり、九州・関西地方とも繋がっていることから、岡山県総合流通センター（早島町）や岡山総社I C流通センター（総社市）などの広域物流拠点が整備されている。また、玉島ハーバーアイランド（倉敷市）、新見工業団地（新見市）、成羽工業団地（高梁市）、テクノパーク総社（総社市）、笠岡港工業用地（笠岡市）、浅口工業団地（浅口市）などの工業団地が整備され、企業集積を図るとともに、圏域経済の基盤を支えている。このほか、J R倉敷駅周辺には、県外に至る商圈を有し、年間1,000万人を超える集客がある2つの大型商業施設が立地している。（倉敷市）。



2) 取組の方向性

I 観光客の周遊性向上、外国人観光客の誘致拡大

平成 26 年に実施したビッグデータを活用した観光動態調査結果によると、圏域への来訪者の約半分が倉敷市中心部を訪れていること、圏域への来訪者の平均の日中滞在時間が 3.74 時間であり、来訪者の半数以上が日帰りであること、また、圏域内の平均周遊箇所数が、1.07 箇所に留まっていること等が示された。

これらのことから、特に、圏域内の周遊を促進するため、圏域内への新たな魅力拠点の創出や各地域が有する観光資源の有機的な連携、さらに、こうした圏域内の資源のルート化など、来訪者の周遊性を高めることにより、圏域全体の観光客の増加による経済の活性化を目指す。また、夜間イベントの開催等で宿泊につながる取組の充実を図る。

中長期的には 2020 年の東京オリンピック・パラリンピック開催決定を受け、国では、2020 年の訪日外国人旅行者数を、2013 年実績の 1,000 万人の 4 倍である 4,000 万人にすることを目指しており、本圏域においても積極的な P R や国際的な対応力の向上により、外国人観光客の更なる誘致拡大を目指す。

これらのことから、圏域成長戦略ビジョンの短期的な目標としては、各地域の魅力・企業力の向上、有機的な連携、圏域としての情報発信に向けた基盤を作ることが必要であり、また、基盤が整ったものから、全国に発信・誘客を図っていくこととする。

- ◎ 国際おもてなしマイスター育成事業
- ◎ 観光資源発掘・発信事業
- ◎ 山田方谷の軌跡（～奇跡～）
- ◎ 「巡・金田一耕助の小径」事業
- ◎ 高梁川流域圏交流人口状況調査事業（観光）
- ◎ 情報発信拠点整備事業
- ◎ 高梁川流域観光振興協議会運営事業
- ◎ 高梁川流域ふるさと協力隊推進事業
- ◎ 伯備線沿線周遊モデルコース開拓事業
- ◎ 高梁川流域 W i - F i 整備事業
- ◎ 高梁川流域デジタルアーカイブ（M a p ・映像）事業

II 圏域の経済成長に向けた施策の立案

圏域の産学金官民が一体となった「高梁川流域経済成長戦略会議」等を運営し、圏域の経済成長に向けた成長戦略等の協議、施策の立案等を目指す。

- ◎ 高梁川流域経済成長戦略推進事業

3. 「圏域全体の経済成長」における具体的取組等

Ⅲ 圏域全体での起業促進、ビッグデータ等の活用による新たなビジネスの創出

幅広い世代による多種多様な分野での起業促進を図るため、起業を目指す住民や事業者に対し、商工団体などの圏域の関係機関が一体となって段階にあった支援を行うほか、圏域内の産地連携の促進により、新事業の創出を目指す。また、圏域の公共データ等を地域の事業者等が二次利用しやすいよう加工した情報をビッグデータとして活用することにより、地域での新たなビジネスの創出を促進する。

- ◎ 創業サポートセンター広域連携事業
- ◎ 流域ソーシャルイノベーション推進事業
- ◎ 事業者間連携・事業承継支援事業
- ◎ 繊維産業「産地連携」推進事業
- ◎ データで紡ぐ高梁川流域事業

Ⅳ 新たな魅力拠点の構築

高梁川流域の特徴として、圏域の各市町には、歴史的価値のある古民家・町家が数多く保存されている。それらを調査・再生・活用し、圏域内において観光客等が複数の箇所を周遊できる新たな魅力拠点を構築することで、観光客の増加や居住促進による賑わいと活力の創出を目指す。

- ◎ 町家・古民家で紡ぐ魅力拠点づくりと技術伝承事業

Ⅴ 圏域の地域資源を活用した商品開発・販路開拓

圏域の地域資源を活用した商品開発や販路開拓を支援するほか、高梁川の豊かな水に育まれた圏域の農林水産品を圏域内外に発信し、認知度向上と消費拡大を目指す。

- ◎ 高梁川流域地域資源活用推進事業
- ◎ ぼっけーうめえ農林水産品事業
- ◎ 鳥獣害防止対策流域連携事業

Ⅵ U I J ターン等による就職の促進

本圏域の推計人口では、2010年から2040年の間に、生産年齢人口は、大きく減少する見込みである。地域経済の継続的な発展には、生産年齢人口の維持拡大や雇用のミスマッチの防止に向けた取組が必要となるため、圏域で協力体制を構築し、U I J ターンの促進や若い世代が域内で就職するための取組を実施することで、労働力の確保と就職率の向上を目指す。

- ◎ 高梁川流域就職面接会等開催事業
- ◎ 未来人材育成事業
- ◎ 働き方改革啓発推進事業

3) 基本目標

指標 (圏域の数値)	基準値	現状値	目標値 (H31)
工業 事業所数	1,581 事業所 (H25)	1,438 事業所 (H29)	基準値より増加
工業 従業員数	70,891 人 (H25)	69,467 人 (H29)	基準値より増加
商業 事業所数	6,333 事業所 (H26)	7,954 事業所 (H28)	基準値より増加
商業 従業員数	45,693 人 (H26)	59,187 人 (H28)	基準値より増加
主要観光地 観光客数	8,032 千人 (H25)	8,766 千人 (H29)	9,600 千人
観光客の平均 滞在時間	3.74 時間 (H25.7—H26.6)	3.70 時間 (H28.7—H29.6)	4.50 時間

3. 「圏域全体の経済成長」における具体的取組等

4) 連携協約等に基づき推進する具体的取組

● **圏域全体の経済成長**

ア 産学金官民一体となった経済戦略の策定、国の成長戦略実施のための体制整備

連携協約の内容			
圏域の経済成長に向け、産学金官民が一体となった「高梁川流域経済成長戦略会議」を設立し、成長戦略の協議等を行う。			
重要業績評価指標（KPI）			
指標（圏域の数値）	基準値	現状値	目標値（H31）
工業 事業所数 ※基本目標再掲	1,581 事業所 (H25)	1,438 事業所 (H29)	基準値より増加
工業 従業員数 ※基本目標再掲	70,891 人 (H25)	69,467 人 (H29)	基準値より増加
商業 事業所数 ※基本目標再掲	6,333 事業所 (H26)	7,954 事業所 (H28)	基準値より増加
商業 従業員数 ※基本目標再掲	45,693 人 (H26)	59,187 人 (H28)	基準値より増加

事業名	高梁川流域経済成長戦略推進事業						関係市町名
事業概要	産学金官民で構成する「高梁川流域経済成長戦略会議」を運営し、圏域の経済成長に向けた調査・研究を実施するとともに、経済成長に向けた戦略、事業について協議する。						全市町
成果	産学金官民による協議やデータ分析結果を活かした経済成長戦略に基づき、圏域における経済施策を立案し、今後の圏域全体の経済成長につなげる。						
関係市町の役割分担							
倉敷市が中心となって実施し、必要に応じて各市町と協議により決定する。							
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計	
	34,427	23,185	21,120	19,136	14,654	112,522	
国県補助事業等の名称・補助率等							
該当なし							
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方							
原則として、倉敷市が負担する。							

3. 「圏域全体の経済成長」における具体的取組等

イ 産業クラスターの形成、イノベーション実現、新規創業促進、地域の中堅企業等を核とした戦略産業の育成

連携協約の内容			
圏域の特性を活かした様々な分野での起業促進やイノベーションの実現のほか、異分野異業種交流に向けた取組を行う。			
重要業績評価指標（KPI）			
指標（圏域の数値）	基準値	現状値	目標値（H31）
創業件数（産業競争力強化法に基づく創業支援事業による支援を受けて創業した件数）	228件（H27）	505件（H29）	274件
ICT人材（データサイエンティスト）育成数【H27-H31の5か年累計】	8人（H27）	46人（H27-H30）	18人
データ利活用関連事業の起業数及び誘致企業数【H27-H31の5か年累計】	1件（H27）	5件（H27-H30）	5件

事業名	創業サポートセンター広域連携事業						関係市町名
事業概要	起業を目指す住民がワンストップで利用できる「創業サポートセンター」（倉敷・笠岡市設置済）の圏域全体への展開を図り、広域でのセミナーや講演会等を実施する。						全市町
成果	圏域内での創業を促進するとともに、創業後の事業継続や拡大を図る。						
関係市町の役割分担							
倉敷市が中心となって実施し、必要に応じて各市町と協議により決定する。							
事業費（千円）	H27	H28	H29	H30	H31	計	
	2,974	6,080	11,153	11,674	12,264	44,145	
国県補助事業等の名称・補助率等							
該当なし							
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方							
原則として、倉敷市が負担する。							

事業名	流域ソーシャルイノベーション推進事業						関係市町名
事業概要	高梁川流域の社会的課題や地域的課題解決に取り組む事業者を支援するため、地方公共団体や金融機関等を含めた支援機関等のネットワークを構築するほか、ソーシャルビジネスに取り組む事業者の経営課題を解決するセミナー・研修を開催する。						全市町
成果	圏域内で、ソーシャルビジネスに取り組む事業者を支援し、社会的課題、地域的課題をビジネスの手法により解決する。						
関係市町の役割分担							
倉敷市が中心となって実施し、必要に応じて各市町と協議により決定する。							
事業費（千円）	H27	H28	H29	H30	H31	計	
	—	15,000	9,500	—	—	24,500	
国県補助事業等の名称・補助率等							
地域おこし協力隊相談員設置事業費補助金（県1/2）							
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方							
原則として、倉敷市が負担する。							

3. 「圏域全体の経済成長」における具体的取組等

事業名	事業者間連携・事業承継支援事業					関係市町名	
事業概要	倉敷市内事業者と圏域内事業者等による共同研究の開発費用を支援する。また、圏域内の次世代経営者、事業承継、第二創業に取り組む事業者及び後継者を支援する。					全市町	
成果	圏域内の事業者間連携によるイノベーション、地域経済循環効果が期待できる。事業承継、第二創業の促進により、経済活動の担い手を確保する。						
関係市町の役割分担							
倉敷市が中心となって実施し、必要に応じて各市町と協議により決定する。							
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計	
	－	12,025	15,022	13,500	13,500	54,047	
国県補助事業等の名称・補助率等							
該当なし							
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方							
原則として、倉敷市が負担する。							

事業名	繊維産業「産地連携」推進事業					関係市町名	
事業概要	高梁川流域圏内の産地連携を目指し、圏域内の繊維産業事業者間の交流、連携を図る。また、デニム、ジーンズ製造技術等、熟練の知識、技術を伝達する研修を実施するほか、小学生等を対象に、繊維産業の将来を担う人材の育成に向けた取組を行う。					新見市、高梁市、総社市、倉敷市、矢掛町、井原市、浅口市、里庄町、笠岡市	
成果	産地連携によるイノベーションや、繊維産業の活性化が期待できる。また、広域の産地 PR により、効率的、効果的な情報発信が可能となる。						
関係市町の役割分担							
倉敷市が中心となって実施し、必要に応じて各市町と協議により決定する。							
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計	
	－	5,368	12,001	11,172	10,615	39,156	
国県補助事業等の名称・補助率等							
該当なし							
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方							
原則として、倉敷市が負担する。							

3. 「圏域全体の経済成長」における具体的取組等

事業名	データで紡ぐ高梁川流域事業					関係市町名
事業概要	圏域の自治体等が保有している人口・経済等のデータを一元的に集約し、地域の住民や事業者等がまちづくりやビジネスに活用できるよう加工・分析・ビジュアル化したり、それらを元に AI サービスを構築したりする「仕組み」と「人材」を整備する。将来的には、IoT や AI といった高度データ利活用事業を圏域の基盤産業化する。					全市町
成果	高度データ利活用技術の社会実装可能な人材・組織が圏域に形成されることで、イノベーションの創出が推進され、地域経済の活性化に寄与する。					
関係市町の役割分担	倉敷市が先行的・試行的に取り組み、並行して連携した取組について関係市町と協議を行う。					
事業費 (千円)	H27 50,058	H28 47,418	H29 102,458	H30 52,340	H31 27,139	計 279,413
国県補助事業等の名称・補助率等	該当なし					
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方	原則として、倉敷市が負担するが、必要に応じて、関係市町と協議し決定する。					

ウ 地域資源を活用した地域経済の裾野拡大

連携協約の内容	圏域内の地場製品の生産拡大につながる販路開拓や地域の原材料を活用した新商品開発への支援のほか、町家・古民家の保存・再生・活用等、圏域経済活性化に向けた取組を行う。		
重要業績評価指標 (K P I)	基準値	現状値	目標値 (H31)
指標 (圏域の数値)			
「町家・古民家で紡ぐ魅力拠点づくりと技術伝承事業」を通じて創出する集客拠点数 【H27-H31 の 5 か年累計】	0 件 (H27)	20 件 (H27-H30)	2 件
高梁川流域圏域内の地域資源 PR、販売促進、販路拡大支援における商談数	13 件 (H27)	179 件 (H29)	17 件
農水産物 PR イベントの実施回数 【H27-H31 の 5 か年累計】	2 回 (H27)	11 回 (H27-H30)	15 回

3. 「圏域全体の経済成長」における具体的取組等

事業名	町家・古民家で紡ぐ魅力拠点づくりと技術伝承事業					関係市町名
事業概要	圏域内各地に存在する町家・古民家を再生整備、活用するとともに、町並み景観を保全するため、圏域全体で再生整備事業を一括管理する仕組みを構築する。 また、圏域の建築士、大工をはじめ、町家・古民家再生に必要な素材・部材を提供する事業者まで含めた技術継承産業クラスターを形成する。					新見市、高梁市、総社市、早島町、倉敷市、矢掛町、井原市、浅口市、笠岡市
成果	圏域内の町家等の一体的な保存・再生・整備により、圏域の新たな魅力の発信による更なる広域集客、及び雇用の創出を図る。					
関係市町の役割分担						
平成26年度調査を基に倉敷市と関係市町で協議し、事業計画を立案する。						
事業費 (千円)	H27 12,000	H28 12,325	H29 12,299	H30 12,371	H31 9,934	計 58,929
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
町家・古民家等の調査・活用・計画の方向性策定に関する費用は、原則として、倉敷市が負担する。町家・古民家再生活用(整備・運営)に関する費用は、原則として、民間活力を活用し、当該物件立地自治体が各々必要な支援を行う。						

事業名	高梁川流域地域資源活用推進事業					関係市町名
事業概要	専門人材メディア等を活用した新たな情報発信手法の検討や販路開拓等の支援、朝市、物産展の開催支援など圏域内の地域資源を磨き、発信、拡大する事業を実施する。					全市町
成果	高梁川流域地域資源の活用を促進し、地域経済の循環・活性化を図る。					
関係市町の役割分担						
倉敷市が中心となって実施し、必要に応じて各市町と協議により決定する。						
事業費 (千円)	H27 43,550	H28 36,559	H29 35,234	H30 34,527	H31 31,489	計 181,359
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
原則として、実施主体となる市町が負担するが、必要に応じて関係市町と協議し決定する。						

3. 「圏域全体の経済成長」における具体的取組等

事業名	ぼっけーうめえ農林水産品事業						関係市町名
事業概要	高梁川の恵みにより、四季を通じて、豊かで高品質な農林水産物が出荷できる強みを活かした販売促進事業等を実施する。						全市町
成果	圏域の農林水産品に対する認知度の向上により、産地の活性化とブランド力の強化を図る。						
関係市町の役割分担							
倉敷市が中心となって、関係市町及び阿新・びほく・岡山西・倉敷かさや農協と連携し、事業を実施する。							
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計	
	10,000	13,131	5,724	7,126	10,721	46,702	
国県補助事業等の名称・補助率等							
該当なし							
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方							
原則として、倉敷市が負担し、必要に応じて各市町と協議により決定する。							

事業名	鳥獣害防止対策流域連携事業						関係市町名
事業概要	有害鳥獣から農作物を守るため、流域ぐるみで農作物等鳥獣害防止に向けた取組を検討、実施する。						全市町
成果	圏域全体の傾向を把握でき、狩猟者の減少による捕獲圧の低下を食い止め、また、問題の解消に努めることで鳥獣被害の軽減につながる。						
関係市町の役割分担							
倉敷市が中心となって実施し、必要に応じて各市町と協議により決定する。							
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計	
	—	—	468	0	0	468	
国県補助事業等の名称・補助率等							
該当なし							
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方							
原則として、倉敷市が負担し、必要に応じて各市町と協議により決定する。							

エ 戦略的な観光施策

連携協約の内容			
観光資源の魅力向上や広域観光周遊ルートの形成、情報発信力の強化のほか、外国人観光客の受入体制の整備等、圏域全体への誘客拡大に向けた取組を行う。			
重要業績評価指標（KPI）			
指標（圏域の数値）	基準値	現状値	目標値（H31）
主要観光地観光客数 ※基本目標再掲	8,032 千人(H25)	8,766 千人(H29)	9,600 千人
観光客の平均滞在時間 ※基本目標再掲	3.74 時間 (H25.7-H26.6)	3.70 時間 (H28.7-H29.6)	4.50 時間
圏域来訪者の平均周遊箇所数	1.07 箇所 (H25.7-H26.6)	1.08 箇所 (H28.7-H29.6)	1.30 箇所
デジタルアーカイブ（映像） YouTube 再生回数 【H28-H31 の 4 か年累計】	2,100 回 (H28.4-10)	30,454 回 (H28.4-H30.12)	14,400 回

3. 「圏域全体の経済成長」における具体的取組等

事業名	国際おもてなしマイスター育成事業					関係市町名
事業概要	2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を控え、地方においても外国人観光客の増加が見込まれるため、圏域内の観光事業者等を対象としたセミナーを開催し、圏域を訪れた外国人観光客に対する受入環境の向上を図る。					全市町
成果	圏域全体のおもてなし気運を高め、外国人観光客の利便性・満足度の向上を図る。					
関係市町の役割分担						
倉敷市が中心となって実施し、各市町内の観光事業者への案内等を当該市町が実施する。						
事業費 (千円)	H27 42,416	H28 3,789	H29 3,530	H30 1,630	H31 1,630	計 52,995
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
原則として、倉敷市が負担し、必要に応じて各市町と協議により決定する。						

事業名	観光資源発掘・発信事業					関係市町名
事業概要	高梁川流域圏にある特徴的な観光資源を発掘・発信するとともに、圏域の認知度向上を図るため、旅行社等を対象にした招請や、圏域内の観光資源を活用した周遊型旅行商品の造成促進などを行う。					全市町
成果	圏域内の観光資源のルート化等により、観光客の増大・周遊性の向上を図る。					
関係市町の役割分担						
倉敷市が中心となって実施し、必要に応じて関係市町の協力を得る。						
事業費 (千円)	H27 4,981	H28 4,000	H29 3,620	H30 3,244	H31 5,000	計 20,845
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
原則として、倉敷市が負担し、必要に応じて各市町と協議により決定する。						

事業名	山田方谷の軌跡（～奇跡～）					関係市町名
事業概要	備中松山藩出身の幕末の偉人「山田方谷」に焦点を当て、その業績を全国へ発信し、現代に活かしていくとともに、山田方谷が影響を与えた人物、ゆかりの地や関連施設等を紹介し、高梁川流域圏のブランド力を高め、広域観光を促進する。					新見市、高梁市、総社市、倉敷市、矢掛町、井原市、浅口市
成果	新たな観光資源として活用し、観光客の増大・周遊性の向上につなげる。知名度向上により、将来的には、大河ドラマに取り上げてもらえる可能性も高まる。					
関係市町の役割分担						
実行委員会（事務局：倉敷市）が中心となって実施し、必要に応じて関係市町の協力を得る。						
事業費 (千円)	H27 4,940	H28 3,490	H29 2,690	H30 2,190	H31 2,690	計 16,000
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
原則として、倉敷市が負担し、必要に応じて各市町と協議により決定する。						

3. 「圏域全体の経済成長」における具体的取組等

事業名	「巡・金田一耕助の小径」事業					関係市町名
事業概要	横溝正史の小説の主人公「金田一耕助」をとりあげ、「名探偵、金田一耕助が生まれたまち」として真備エリアをPRするとともに、高梁川流域圏の「金田一耕助」ゆかりのポイントを紹介する。					新見市、高梁市、総社市、倉敷市、矢掛町、井原市、笠岡市
成果	金田一耕助ゆかりの地のルート化等により、圏域に訪れる観光客の増大・周遊性の向上につなげる。					
関係市町の役割分担						
実行委員会（事務局：倉敷市）が中心となって実施し、必要に応じて関係市町の協力を得る。						
事業費 (千円)	H27 2,500	H28 3,500	H29 2,100	H30 2,250	H31 2,100	計 12,450
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
原則として、倉敷市が負担し、必要に応じて各市町と協議により決定する。						

事業名	高梁川流域圏交流人口状況調査事業（観光）					関係市町名
事業概要	GPS等のデータの使用やアンケートの実施により、高梁川流域圏の交流人口（観光動態）の状況を調査・分析する。圏域での施策立案に活用する。					全市町
成果	分析した情報は、圏域でのシティセールス施策立案等に活用する。					
関係市町の役割分担						
倉敷市が中心となって実施する。						
事業費 (千円)	H27 15,021	H28 0	H29 5,900	H30 0	H31 0	計 20,921
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
原則として、倉敷市が負担する。						

事業名	情報発信拠点整備事業					関係市町名
事業概要	圏域全体の魅力向上と情報発信のための施設を倉敷美観地区周辺等に整備し、観光PRや各地域の特産品の販売などを行う。					全市町
成果	倉敷市を訪れる観光客に圏域観光を広くPRし、圏域の周遊性の向上につなげる。					
関係市町の役割分担						
倉敷市が中心となって実施する。各市町は、施設で取り扱う特産品の選定や観光パンフレット等の提供等を行う。						
事業費 (千円)	H27 0	H28 0	H29 0	H30 0	H31 0	計 0
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
原則として、倉敷市が負担し、必要に応じて各市町と協議により決定する。						

3. 「圏域全体の経済成長」における具体的取組等

事業名	高梁川流域観光振興協議会運営事業					関係市町名
事業概要	各市町や観光協会を構成員とする「高梁川流域観光振興協議会」で、圏域観光情報の発信や圏域の地域資源を活用した商品開発・販路拡大、インバウンドの推進などを行う。					全市町
成果	圏域内の各市町、観光協会間の横のつながりの強化を図る。					
関係市町の役割分担		倉敷市が中心となって実施し、必要に応じて関係市町の協力を得る。				
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計
	－	13,173	14,754	8,500	10,000	46,427
国県補助事業等の名称・補助率等		該当なし				
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方		関係市町間で負担割合を決定し、関係市町が負担する。				

事業名	高梁川流域ふるさと協力隊推進事業					関係市町名
事業概要	「地域おこし協力隊」を受け入れ、民間活力を活用した高梁川流域の地域資源を活かした事業を実施する。					全市町
成果	高梁川流域の地域資源活性化を図る。					
関係市町の役割分担		倉敷市が中心となって実施し、必要に応じて関係市町の協力を得る。				
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計
	－	42,000	40,000	36,000	12,270	130,270
国県補助事業等の名称・補助率等		該当なし				
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方		原則として、倉敷市が負担する。				

事業名	伯備線沿線周遊モデルコース開拓事業					関係市町名
事業概要	J R伯備線の魅力的な観光資源の知識や関心を一般消費者に対して高めるとともに、同沿線を活用した観光周遊モデルコースの創出と今後の旅行商品化を図るため、J R岡山支社等と連携した貸切観光列車を運行させる。					新見市、高梁市、総社市、倉敷市、矢掛町、井原市、浅口市
成果	圏域の認知度の向上を図るとともに、更なる誘客を促進させる。					
関係市町の役割分担		倉敷市が中心となって実施し、必要に応じて関係市町の協力を得る。				
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計
	－	4,535	1,000	1,000	1,000	7,535
国県補助事業等の名称・補助率等		該当なし				
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方		原則として、倉敷市が負担する。				

3. 「圏域全体の経済成長」における具体的取組等

事業名	高梁川流域Wi-Fi整備事業					関係市町名
事業概要	高梁川流域の観光拠点に、Wi-Fi環境を整備する。 外国人を含む観光客など、利用者がストレスなく無料で利用できる 公衆無線LANサービスを、高梁川流域の共通基盤として整備し、 運用する。					全市町
成果	観光客の情報通信環境の充実や、SNS等による情報発信の促進を図る。					
関係市町の役割分担						
倉敷市が中心となって実施し、各市町は、Free Wi-Fi設置の検討、整備を行う。						
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計
	—	38,612	31,137	7,111	6,376	83,236
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
原則として、サーバ等の整備・運用経費は倉敷市が負担し、無線アクセスポイント等の整備・ 運用経費は各市町が負担する。						

事業名	高梁川流域デジタルアーカイブ(Ma p・映像)事業					関係市町名
事業概要	圏域内の大学と連携し、高梁川流域連盟のホームページ内に圏域の 文化施設や自然に関する情報等を掲載した高梁川流域Ma pを作 成する。また、圏域に根付く風習、自然、建築、工芸、食文化等を 映像で記録し、We b上で公開する。					全市町
成果	高梁川流域の雄大な景観や歴史的な名所などの魅力をWe b上のMa pや映像で発信すること により、地域への愛着と誇りを醸成するとともに、圏域外からの集客促進につながる。					
関係市町の役割分担						
倉敷市が中心となって、関係市町とともに大学や民間団体等と連携し、Ma p・映像作成を行 う。						
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計
	6,900	7,175	7,168	7,184	7,168	35,595
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
原則として、倉敷市が負担する。						

3. 「圏域全体の経済成長」における具体的取組等

オ その他、圏域全体の経済成長に係る施策

連携協約の内容			
圏域内での就業機会の拡大等、圏域全体の経済成長を目的とした取組を行う。			
重要業績評価指標（KPI）			
指標（圏域の数値）	基準値	現状値	目標値（H31）
就職面接会のマッチングによる 就職内定者数	12人（H28）	6人 （H30.4-H30.12）	27人

事業名	高梁川流域就職面接会等開催事業					関係市町名
事業概要	圏域内で就職しやすい環境整備に向け、産学官で連携し、UIJT ターン就職希望者や新卒者を対象とした圏域合同企業説明会や就職 相談会等を開催する。					全市町
成果	広域での面接機会を提供することで、求人と求職の円滑なマッチングが可能となり、労働力の 確保と就業率の向上に寄与する。					
関係市町の役割分担						
倉敷市が中心となって実施し、関係市町は開催会場の提供等の側面支援を担う。						
事業費 （千円）	H27	H28	H29	H30	H31	計
	0	19,296	8,484	8,450	6,421	42,651
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
原則として、倉敷市が負担する。						

事業名	未来人材育成事業					関係市町名
事業概要	高校と商工団体（商工会議所・商工会等）・金融機関・大学等が連 携して実施する各種ビジネスプランコンテストへの参加やインタ ーンシップ等地域経済活動等にかかわるアクティブラーニングや キャリア教育を支援する。					全市町
成果	圏域内の高校生がビジネスの考え方や技能を身に付け、地域産業への関心を高めることにより、 地域産業に貢献する人材育成の輩出が期待できる。					
関係市町の役割分担						
倉敷市が中心となって実施し、必要に応じて関係市町の協力を得る。						
事業費 （千円）	H27	H28	H29	H30	H31	計
	—	—	2,500	3,500	3,500	9,500
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
原則として、倉敷市が負担する。						

3. 「圏域全体の経済成長」における具体的取組等

事業名	働き方改革啓発推進事業					関係市町名
事業概要	高梁川流域圏の中小企業における生産性向上、若者の職場定着、求職者に向けた企業PR、結婚・介護・看護等での離職など諸課題について、課題解決に資する講演会及びグループワークを実施する。					全市町
成果	働き方に関する課題解決に向けた講演会等を開催することにより、高梁川流域の中小企業の人材確保が円滑に進むことが期待できる。					
関係市町の役割分担	倉敷市が中心となって実施し、関係市町は住民等への周知等を行う。					
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計
	—	—	—	160	500	660
国県補助事業等の名称・補助率等	該当なし					
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方	原則として、倉敷市が負担する。					

4. 「高次の都市機能の集積・強化」における具体的取組等

4. 「高次の都市機能の集積・強化」における具体的取組等

1) 現状

- ・ JR倉敷駅周辺の中心市街地は、駅北側には市内外から年間約1,000万人超が来訪する大型商業施設が2か所、また、駅南側には年間約350万人の観光客が訪れる昔ながらの町並みを有する美観地区を有している。現在、倉敷市では倉敷駅周辺の区画整理事業を推進するとともに、県事業であるJR山陽本線等倉敷駅付近連続立体交差事業の事業化に向けた取組を進めている。
- ・ 倉敷市内には、岡山県の三次救急指定病院として、高度医療を担う急性期基幹病院である倉敷中央病院と、高度救命救急センターを併設しドクターヘリ事業を行っている川崎医科大学附属病院がある。
- ・ 圏域内には15の高等教育機関（大学・短大等）があり、そのうち倉敷市内には11機関がある。倉敷市では、平成21年11月に学官及び大学間の連携に向け、倉敷市大学連携推進協議会を設置し、市民向けの大学連携講座や、市によるインターンシップ受け入れ事業などを行っている。



2) 取組の方向性

I 圏域における救急医療体制の向上

圏域内において、重篤な患者等への高度な医療サービスが行える三次救急指定病院は、倉敷市内にある倉敷中央病院と川崎医科大学附属病院の2か所であり、圏域内からの救急患者も多く受け入れることから、圏域全体を意識した救急医療体制の整備により、圏域住民への医療サービスの向上を目指す。

II JR倉敷駅周辺地域の拠点性の向上

山陽自動車道、岡山自動車道、瀬戸中央自動車道の結節点に近接し、県内を東西に連絡するJR山陽本線と岡山と山陰を結ぶJR伯備線の結節点となるJR倉敷駅周辺地域の拠点性の向上を図ることにより、圏域内外へのアクセス拠点に相応しいまちづくりを目指す。

- ◎ 倉敷駅付近連続立体交差関連事業
- ◎ 都市計画基本調査事業

III 地域公共交通の活性化及び再生

持続可能な地域公共交通網の形成に資するよう地域公共交通の活性化及び再生を目指す。

- ◎ 倉敷市公共交通網調査検討事業
- ◎ バス路線再編（構築）事業

IV 将来の圏域を担う人材の育成

高等教育・研究開発の環境整備などにより、圏域の将来を担う人材育成を目指す。

- ◎ 高梁川流域学校事業

V 更なる高次の都市機能の集積等に向けた施策の立案

通院や買い物等における圏域内住民の動態を把握し、事業に結びつけることで、更なる高次の都市機能の集積及び生活関連機能サービスの向上を目指す。

- ◎ 高梁川流域圏交流人口状況調査事業（通院・買い物等）

3) 基本目標

指標 (圏域の数値)	基準値	現状値	目標値 (H31)
JR倉敷駅利用者数	18,478 人/日 (H25)	19,433 人/日 (H29)	基準値より増加

4. 「高次の都市機能の集積・強化」における具体的取組等

4) 連携協約等に基づき推進する具体的取組

● **高次の都市機能の集積・強化**

ア 高度な医療サービスの提供

連携協約の内容	
救急医療体制の整備等、高度な医療サービス提供に向けた取組を行う。 ※平成 27 年度以降、取組の具体化したものについて掲載する。	

イ 高度な中心拠点の整備・広域的公共交通網の構築

連携協約の内容			
圏域内外から通勤・通学・通院・観光等で訪れる人々の利便性の向上のため、高度な中心拠点の整備及び公共交通網の構築に向けた取組を行う。			
重要業績評価指標（KPI）			
指標（圏域の数値）	基準値	現状値	目標値（H31）
JR倉敷駅利用者数 ※基本目標再掲	18,478 人／日 (H25)	19,433 人／日 (H29)	基準値より増加

事業名	倉敷駅付近連続立体交差関連事業					関係市町名
事業概要	交通拠点や商業・業務核の形成、都市防災の観点などから、高次の都市機能の集積強化を担う、連続立体交差事業に関連した調査検討などを行う。					倉敷市
成果	圏域における拠点性のほか、観光・通勤・通院等の利便性、都市防災機能の向上に寄与する。					
関係市町の役割分担						
倉敷市が実施する。						
事業費（千円）	H27	H28	H29	H30	H31	計
	23,072	23,072	23,072	23,075	23,067	115,358
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
倉敷市が負担する。						

4. 「高次の都市機能の集積・強化」における具体的取組等

事業名	都市計画基本調査事業						関係市町名
事業概要	人口減少社会の中で、持続可能な都市経営を可能とするため、都市機能（医療・福祉施設、商業施設等）の誘導区域などを定め、コンパクトシティ実現に向けた立地適正化計画等の策定を行う。						倉敷市
成果	居住や都市機能の立地誘導に係る取組を一体的・総合的に推進する。						
関係市町の役割分担							
倉敷市が実施する。							
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計	
	28,800	49,512	19,071	17,768	8,772	123,923	
国県補助事業等の名称・補助率等							
集約都市形成支援事業費補助金（国1/2）							
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方							
倉敷市が負担する。							

事業名	倉敷市公共交通網調査検討事業						関係市町名
事業概要	持続可能な地域公共交通網の形成に資する地域公共交通の活性化及び再生を推進するため、まちづくりと連携した、面的な公共交通ネットワークを再構築するため、基礎調査等を行う。						倉敷市
成果	公共交通の構築により、周辺住民の利便性の向上と相互の発展を図る。						
関係市町の役割分担							
倉敷市が実施する。							
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計	
	5,400	6,200	0	0	5,000	16,600	
国県補助事業等の名称・補助率等							
該当なし							
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方							
倉敷市が負担する。							

事業名	バス路線再編（構築）事業						関係市町名
事業概要	公共交通によるアクセスが不足しているJR倉敷駅・中庄駅と早島駅間の拠点公共交通（路線バス等）で結ぶ。						早島町、倉敷市
成果	公共交通の構築により、周辺住民の利便性の向上と相互の発展を図る。						
関係市町の役割分担							
今後、協議の中で決定する。							
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計	
	0	0	0	3,000	0	3,000	
国県補助事業等の名称・補助率等							
該当なし							
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方							
実施内容に応じて、協議により決定する。							

4. 「高次の都市機能の集積・強化」における具体的取組等

ウ 高等教育・研究開発の環境整備

連携協約の内容			
高等教育・研究開発の環境整備等、将来を担う人材育成に向けた取組を行う。			
重要業績評価指標（KPI）			
指標（圏域の数値）	基準値	現状値	目標値（H31）
高梁川流域学校事業のうち人材育成等につながるイベントへの参加者数（不特定多数が参加するイベントは除く） 【H27-H31の5か年累計】	761人 (H27)	3,386人 (H27-H29)	5,000人

事業名	高梁川流域学校事業				関係市町名	
事業概要	圏域の大学・企業・各種団体等によるネットワーク組織によって、高梁川流域の自然、歴史・文化、産業、町並み、人などを地域の学びのコンテンツとして、企業研修等を実施。圏域の将来を担う人材育成とコミュニティの意識向上を図る。				全市町	
成果	活動実績のある民間の力を活用し、産学官民の連携により、圏域の人材育成・コミュニティの意識向上を図ることができる。					
関係市町の役割分担						
倉敷市が民間団体との連携窓口となり、関係市町は住民への周知等を行う。						
事業費（千円）	H27	H28	H29	H30	H31	計
	8,500	8,500	8,500	8,500	8,500	42,500
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
原則として、倉敷市が負担する。						

エ その他、高次の都市機能の集積・強化に係る施策

連携協約の内容			
交流人口状況の調査・分析等、高次の都市機能の集積を目的とした取組を行う。			
重要業績評価指標（KPI）			
指標（圏域の数値）	基準値	現状値	目標値（H31）
動態調査実施回数 【H27-H31の5か年累計】	0回（H27）	2回（H27-H30）	3回

4. 「高次の都市機能の集積・強化」における具体的取組等

事業名	高梁川流域圏交流人口状況調査事業 (通院・買い物等)				関係市町名	
事業概要	GPS等のデータの使用やアンケートの実施により、高梁川流域圏の交流人口(通院・買い物等の動態)の状況を調査・分析する。圏域での施策立案に活用する。				全市町	
成果	分析した情報は、圏域での高次の都市機能の集積に向けた施策立案等に活用する。					
関係市町の役割分担						
倉敷市が中心となって実施し、関係市町は調査に必要な情報提供等を行う。						
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計
	0	0	0	0	0	0
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
原則として、倉敷市が負担する。						

5. 「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」における具体的取組等

1) 現状

【生活機能の強化に係る政策分野】

- ・医療・介護について、「地域包括ケアシステム」の構築に向け、圏域内では倉敷市に多くの医療機関が立地し、他市町からも多くの受診者があることから、自治体間で連携し、医療機関と介護事業者の連携を推進する必要がある。
- ・子育てについて、圏域内での待機児童は、平成 26 年 4 月の時点で、倉敷市のみ 28 人となっていたが、平成 25 年度に新設した 2 園に続き、平成 26 年度中に 3 園を新設し、増員を図った。圏域内では、保育士確保の難しい市町があり、保育士を安定的に雇用することも課題となっている。
- ・社会教育施設の利用について、圏域内の図書館は、平成 26 年 4 月より高梁川流域連盟の取組の中で、相互利用を開始した。また、倉敷市では、小・中学生を対象に休日に無料で市内の公立・私立の社会教育施設や文化施設に入園できる取組を行っている。
- ・防災対策においては、各市町は、災害時に避難所となる小・中学校などの公共施設の耐震化や自主防災組織の推進などにより、公助・自助・共助に向けた取組を行っているが、自治体間での連携は殆ど行われていない。

【ネットワークの強化に係る政策分野】

- ・高齢化の進展に伴い、圏域では、地域公共交通の役割はますます高まっている。廃止バス路線の代替及びバス路線の無い地域での乗合タクシー制度の実施や第三セクターへの運営費の助成を行っている。
- ・地域内外の住民との交流・移住促進に係る圏域の現状として、圏域全体の人口の社会動態では、平成 22 年国勢調査値（平成 17 年国勢調査時常駐地からの移動状況）では、圏域全体で 1,697 人の転入超過となっているが、三大都市圏へは、2,063 人の転出超過となっている。

【圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野】

- ・職員研修では、各市町が職員の啓発や住民サービスの向上のため独自に実施しているほか、公益財団法人岡山県市町村振興協会などが県内自治体を対象に研修を実施している。倉敷市では、岡山市との職員の人事交流（職員の相互派遣）や岡山市・福山市との合同職員研修などを実施している。
- ・倉敷市では、行財政改革の柱の一つとしてファシリティマネジメントの推進を掲げ、老朽化する公共施設への対応を図るため、「倉敷市公共施設白書」を作成するなど、県内では先駆的な取組を行っている。

2) 取組の方向性

【生活機能の強化に係る政策分野】

I 医療・介護や障がい福祉等における圏域市町の連携推進

医療・介護や障がい福祉等において広域で連携し、患者や高齢者、障がい者とその家族が安心して健康で豊かな暮らしを営めるよう圏域市町が連携し、サービス向上に努める。また、社会生活が困難な若者等に対して、自立に向けた支援ができる体制の構築を目指す。

- ◎ 重篤患者への救急医療体制の整備事業
- ◎ 医療介護広域連携推進事業
- ◎ AB-1 コンテスト開催事業
- ◎ 地域医療普及啓発促進事業
- ◎ ニート等の職業的自立支援事業
- ◎ 高梁川流域配偶者暴力相談支援事業

II 子育て支援施設の相互利用や施策の連携

圏域内の子育て世代が安心して子育てできる環境を整えるため、保育所等の子育て支援施設の相互利用や施策の連携により、子育て等のネットワーク化を進める。

- ◎ 子育ての資源・魅力・交流事業
- ◎ 保育士・保育所支援センター運営事業
- ◎ 病児保育事業広域化事業

III 社会教育施設等の相互利用促進

域内の図書館等の社会教育施設の利用促進や学校教育の充実に向けた自治体間の連携等により、生涯学習の推進、青少年の健全育成に努める。

- ◎ 高梁川流域パスポート事業
- ◎ 公立図書館相互返却事業
- ◎ 学校教育連携促進事業
- ◎ 大学連携推進事業
- ◎ 林原コレクション展開催事業
- ◎ 学校給食アレルギー対応献立レシピ研究事業

IV スポーツ活動機会の充実

圏域の大学等と連携してスポーツ活動の機会の充実等を図り、高齢者等の圏域住民の健康寿命の延伸を目指す。

- ◎ 中高年健康スポーツ推進事業

5. 「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」における具体的取組等

V 圏域内の歴史的町並み等の保全

圏域の歴史的な町並みや自然景観を保存するため、官民のネットワークの構築等を目指す。

- ◎ 備中町並みネットワーク事業

VI 効率的・効果的な都市計画等の推進

自治体間の連携による効果が高い都市空間の再形成等に向けた取組を推進する。

- ◎ 航空写真共同撮影事業

VII にぎわいの創出や地場産業の振興による地域活性化

市民活動団体、学生ボランティア等のまちづくりへの参画促進によるにぎわいの創出や、地域の経済や雇用を支える地場産業の振興などにより、地域の活性化を目指す。

- ◎ 高梁川流域地域づくり連携推進事業
- ◎ 高梁川流域協働のまちづくり推進事業
- ◎ 大学等による地域貢献促進事業
- ◎ 高梁川流域吉備真備囲碁交流事業

VIII 圏域における災害時の連携体制の構築

災害から圏域住民の生命と財産を守るため、連携体制の構築による防災力の強化を目指す。

- ◎ 防災力強化事業
- ◎ 備中地区消防相互支援事業

IX 環境意識の啓発や生物多様性の保全の推進

流域の自然がもたらす資源や公益的な機能を持続的に利用し続けられるよう、環境意識の啓発や生物多様性の保全を推進する。

- ◎ 生物多様性エコツアーの相互実施支援事業
- ◎ 倉敷市環境学習センターでの環境学習事業
- ◎ 高梁川流域圏内クリーン一斉行動事業

【ネットワークの強化に係る政策分野】

I 少子高齢化・人口減少社会に対応した交通ネットワークの構築

今後の少子高齢化・人口減少社会に対応し、高齢者や障がい者に配慮した交通ネットワークを構築する。

II ICT化推進による利便性向上

ICTインフラの整備に向けた取組により、ICTを活用した利便性の向上やテレワーク推進を目指す。

III 広域的な交通アクセスの向上

圏域内住民相互の利便性向上及び救急医療体制の機能向上に向け、広域的なネットワークとして重要な幹線道路等について、関係機関との連携により整備の促進を目指す。

- ◎ 幹線道路の整備促進事業

IV 三大都市圏からの人口流入促進

圏域市町が一体となってU I Jターン及び定住の促進に向けた取組を行うことにより、三大都市圏等への人口流出に歯止めをかけ、人口流入の促進を図る。

- ◎ 移住交流推進事業
- ◎ 移住定住冊子作成等圏域発信事業
- ◎ 結婚相談所運営事業
- ◎ 高梁川流域婚活推進事業

V 広報活動における連携推進

各市町が実施している施策やイベントをお互いに広報しあうことにより、施策等の費用対効果の向上、圏域の一体感の醸成を目指す。

- ◎ 広報紙面交流事業

【圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野】

I 職員合同研修、人事交流の推進

職員合同研修及び人事交流の推進により、連携強化と圏域全体のマネジメントやリーダーシップが発揮できる人材の育成を目指す。

- ◎ 職員合同研修実施事業
- ◎ 圏域内職員の人事交流（相互交流）事業

II ファシリティマネジメントの推進

圏域内自治体が抱える公共施設の再整備や老朽化対策などへの対応に向け、施設の相互利用や倉敷市が取組を進めているファシリティマネジメントを活用した支援を行う。

- ◎ 公共ファシリティマネジメント推進事業
- ◎ 圏域内公共建物現況調査及び台帳作成支援事業

5. 「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」における具体的取組等

3) 基本目標

指標 (圏域の数値)	基準値	現状値	目標値 (H31)
出生者数	6,565 人 (H25)	6,015 人 (H29)	基準値を維持
人口社会増	1,697 人 (H22) ※1	2,213 人 (H27) ※2	0 人 (H32)
井原鉄道利用者数	3,009 人/日 (H25)	3,123 人/日 (H29)	基準値より増加

※1 平成 17 年調査時常住地からの移動状況

※2 平成 22 年調査時常住地からの移動状況

4) 連携協約等に基づき推進する具体的取組

● 圏域全体の生活関連機能サービスの向上

ア 生活機能の強化に係る政策分野

a 地域医療、介護

連携協約の内容			
健康寿命の延伸につながる地域医療の充実に向けた取組を行うとともに、医療介護の広域連携を踏まえ、高齢者等への介護サービスの充実に向けた取組を行う。			
重要業績評価指標（KPI）			
指標（圏域の数値）	基準値	現状値	目標値（H31）
救急救命士数	199人（H27）	233人（H30）	217人
医療・介護・生活支援など多職種との連携を意識して「常に活動している」「活動している」人の割合 ※事業開催時に医療・介護従事者等を対象にアンケートを実施	—	95.5%（H29）	80%

事業名	重篤患者への救急医療体制の整備事業					関係市町名
事業概要	圏域内における重篤な患者に対する夜間の救急医療体制の整備について検討、実施する。					全市町 （備中地区6消防本部）
成果	圏域内の重篤な患者の救急搬送時間の短縮を図る。					
関係市町の役割分担						
協議により決定する。						
事業費 （千円）	H27 0	H28 0	H29 112	H30 67	H31 67	計 246
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
関係市町と協議し決定する。						

事業名	医療介護広域連携推進事業					関係市町名
事業概要	地域包括ケアシステム構築のため、圏域にて研修会・講演会等を実施する。					全市町
成果	自治体間の連携や、医療機関と介護事業者との良好な関係の構築により、利用者のサービス向上を図る。					
関係市町の役割分担						
倉敷市が中心となって、関係市町とともに医師会等の関係機関と連携し、事業を実施する。						
事業費 （千円）	H27 489	H28 311	H29 607	H30 362	H31 335	計 2,104
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
原則として、倉敷市が負担するが、必要に応じて、関係市町と協議し決定する。						

5. 「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」における具体的取組等

b 福祉

連携協約の内容			
障がい者への自立支援や子育て支援の充実等、福祉向上に向けた取組を行う。			
重要業績評価指標（KPI）			
指標（圏域の数値）	基準値	現状値	目標値（H31）
AB-1コンテストの来場者数 【H27-H31の5か年累計】	1,436人（H27）	4,755人 （H27-H30）	8,000人
圏域全体を対象とした保育士の離職防止対策研修会の実施数 【H27-H31の5か年累計】	2回（H27）	32回 （H27-H30）	25回

事業名	AB-1コンテスト開催事業					関係市町名
事業概要	障がい者就労施設（就労継続支援A型・B型事業所など）によるグルメコンテストを開催する。					全市町
成果	障がい者就労施設で働く障がい者の就労意欲向上や工賃アップ、一般住民への障がい者に対する理解促進を図る。					
関係市町の役割分担						
倉敷市が先行的、試行的に取り組み、並行して連携した取組について関係市町と協議を行う。						
事業費（千円）	H27	H28	H29	H30	H31	計
	1,268	1,648	1,744	1,759	1,792	8,211
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
原則として、倉敷市が負担する。						

事業名	地域医療普及啓発促進事業					関係市町名
事業概要	対話型講演会など圏域内の医療機関と連携した取組を通じて、医療の機能分化に対する知識を深め、適切な地域医療環境の構築を図る。					全市町
成果	必要なときに必要な医療が提供できるよう、医療の機能分化に対する知識を高めることで、限られた医療資源の効果的・効率的な活用を図ることができる。					
関係市町の役割分担						
倉敷市が中心となって実施し、必要に応じて各市町と協議により決定する。						
事業費（千円）	H27	H28	H29	H30	H31	計
	—	400	400	400	400	1,600
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
原則として、倉敷市が負担する。						

5. 「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」における具体的取組等

事業名	子育ての資源・魅力・交流事業					関係市町名
事業概要	圏域内の子育て中の家族が安心・安全に過ごせる公園や観光地、児童館等の子育て応援施設などの情報を集約し作製した「親子 de おでかけマップ」を活用し、圏域内外の子育て中の家族に情報提供する。					全市町
成果	圏域内の子育てに役立つ各種情報を周知することにより、子育て中の家族が圏域内へ安心して外出できるよう支援する。また、幼少の頃から、圏域内を行き来することで、圏域全体への郷土愛を醸成する。					
関係市町の役割分担						
倉敷市が中心となって実施し、関係市町は当該事業を住民に周知し、積極的な活用を促進する。						
事業費 (千円)	H27 5,406	H28 0	H29 373	H30 281	H31 0	計 6,060
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
原則として、倉敷市が負担する。ただし、今後、特定の一部市町から追加事業等の要望があれば、関係市町と協議し決定する。						

事業名	保育士・保育所支援センター運営事業					関係市町名
事業概要	圏域内での保育士確保等を目的に保育士・保育所支援センターの設置・運営を行い、圏域の認可保育所での就労希望者を対象とした研修事業等を実施する。					全市町
成果	圏域内で保育士が不足していることを踏まえ、保育士の雇用情報の発信や体験実習会・離職防止研修会などを通じて、保育士の確保に努めることで、保育所の安定した運営と保育サービスの向上を図る。					
関係市町の役割分担						
センターを設置している倉敷市が中心となって事業実施し、関係市町は、所管の保育所や住民への周知等を行う。						
事業費 (千円)	H27 4,136	H28 6,747	H29 7,693	H30 7,773	H31 7,564	計 33,913
国県補助事業等の名称・補助率等						
保育対策総合支援事業費補助金（国 1/2）						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
原則として、倉敷市が負担する。						

5. 「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」における具体的取組等

事業名	病児保育事業広域化事業					関係市町名
事業概要	圏域内の病児・病後児保育施設について、圏域での広域的な利用に向けたルールを作り、圏域での安定した保育の提供に努める。					全市町
成果	圏域内の子育て中の共働き世帯等に対し、安定した保育の提供により支援の充実を図る。					
関係市町の役割分担						
倉敷市を含む病児保育施設の立地市町においては、広域化の可否について検討し、広域化可能な市町は必要に応じて協力し、制度設計（ルール作り）等を行う。						
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計
	0	0	821	2,006	2,964	5,791
国県補助事業等の名称・補助率等						
子ども・子育て支援交付金（国・県各 1/3）						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
事業費の発生が見込まれる時は、費用負担について検討する。 なお、病児保育施設の利用者が負担する費用への補助については、当該利用者の居住市町が実施するか否かの判断を行うこととする。						

事業名	ニート等の職業的自立支援事業					関係市町名
事業概要	通学も家事もしていない若年無業者に対し、社会的自立に向けて社会や他者との関わり方について学ぶ場を開設し、学習支援や個別相談、居場所の提供などを行う。					全市町
成果	就職や将来の目標を持つことにより、若者に生きがいや自信を与えることができる。					
関係市町の役割分担						
倉敷市が中心となって実施し、関係市町は住民への周知等を行う。						
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計
	0	0	7,701	9,604	9,299	26,604
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
原則として、倉敷市が負担する。						

5. 「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」における具体的取組等

事業名	高梁川流域配偶者暴力相談支援事業						関係市町名
事業概要	圏域内における DV 被害者支援や DV 防止についての啓発・広報を行うことを目的に、配偶者暴力相談支援センターを運営する。						全市町
成果	DV 被害者への対応については行政単位を超えた視点で取り組むことが必要であることから、関係市町が連携して啓発を行うことにより、これまで被害にあいながらも相談できなかった DV 被害者への支援が可能となり、安心できる生活環境の整備につながる。						
関係市町の役割分担							
相談窓口、啓発の主担当は倉敷市、相談後生活支援などが必要な場合の対応、各住民への啓発は関係市町が行う。							
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計	
	—	11,355	10,759	10,676	10,824	43,614	
国県補助事業等の名称・補助率等							
該当なし							
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方							
原則として、倉敷市が負担する。							

c 教育・文化・スポーツ

連携協約の内容			
学校教育・社会教育環境の整備、スポーツ活動機会の充実、文化財保護のほか、公共施設の相互利用に向けた取組を行う。			
重要業績評価指標 (KPI)			
指標 (圏域の数値)	基準値	現状値	目標値 (H31)
公立図書館広域相互利用による貸出利用者数	10,020 人 (H27)	23,198 人 (H29)	15,000 人
大学連携講座推進事業の受講者数 【H27-H31 の 5 か年累計】	714 人 (H27)	2,265 人 (H27-H29)	4,000 人
運動を通じた健康づくり推進リーダー養成教室の参加者数 【H27-H31 の 5 か年累計】	29 人 (H27)	108 人 (H27-H30)	200 人

事業名	高梁川流域パスポート事業						関係市町名
事業概要	圏域の小学生を対象として、圏域内の美術館や博物館など、社会教育施設等を紹介したパスポートを作成・配付するほか、入館料の免除やスタンプラリー等を実施する。						全市町
成果	圏域の社会教育施設の利用促進により、小学生に学習機会を提供するとともに、各施設の利用促進、交流人口の増加を図る。						
関係市町の役割分担							
倉敷市はパスポート作成に係る業務、啓発チラシ・スタンプラリー景品の作成を行い、全市町で施設等の情報提供及びスタンプラリー等の利用促進事業を実施する。							
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計	
	502	999	985	959	927	4,372	
国県補助事業等の名称・補助率等							
該当なし							
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方							
高梁川流域パスポート作成に関する費用は、原則として、倉敷市が負担する。							

5. 「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」における具体的取組等

事業名	公立図書館相互返却事業					関係市町名
事業概要	圏域の公立図書館で、相互利用により借りた図書を、どの図書館でも返却できるよう貸出図書館への搬送システムを構築する。					全市町
成果	圏域内の全ての公立図書館で図書の返却を可能とすることにより、住民の利便性向上と一層の利用促進につながる。					
関係市町の役割分担						
倉敷市は委託契約などの業務を実施し、関係市町は、図書返却に係る実務全般を行う。						
事業費 (千円)	H27 2,257	H28 734	H29 605	H30 1,949	H31 2,434	計 7,979
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
原則として、倉敷市が負担する。						

事業名	学校教育連携促進事業					関係市町名
事業概要	学校教育における各市町が実施する特色のある取組の広域的な展開や、共通する課題の解決に向けた検討を行う。					全市町
成果	関係市町間での情報共有や課題解決が進み、圏域における学習環境の向上につながる。					
関係市町の役割分担						
倉敷市が中心となって実施し、必要に応じて各市町と協議により決定する。						
事業費 (千円)	H27 0	H28 0	H29 0	H30 0	H31 0	計 0
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
事業費の発生が見込まれる時は、費用負担について検討する。						

事業名	大学連携推進事業					関係市町名
事業概要	高梁川流域圏域に居住・通勤・通学している者を対象に大学連携講座を実施する。					全市町
成果	受講者対象等を圏域に広げることで、大学の専門知識を地域に還元し生涯学習の取組が進む。若い世代に地元大学を身近に感じてもらえる機会を通じて、進学を促進を図る。					
関係市町の役割分担						
倉敷市が中心となって実施し、関係市町は住民への周知等を行う。						
事業費 (千円)	H27 -	H28 3,538	H29 3,450	H30 3,470	H31 5,377	計 15,835
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
原則として、倉敷市が負担する。必要に応じて各市町と協議により決定する。						

5. 「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」における具体的取組等

事業名	林原コレクション展開催事業					関係市町名
事業概要	高梁川流域圏内の博物館等において、倉敷市が所有する恐竜ティラノサウルスをはじめとする林原コレクションの展示のほか、ワークショップや展示解説会等の関連イベントを開催する。					新見市、高梁市、倉敷市、矢掛町、浅口市、里庄町
成果	高梁川流域圏の教育・文化の振興と賑わいの創出を図る。					
関係市町の役割分担	倉敷市とイベントを開催する自治体との協議により決定する。					
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計
	—	—	1,968	0	0	1,968
国県補助事業等の名称・補助率等	該当なし					
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方	倉敷市とイベントを開催する自治体との協議により決定する。					

事業名	学校給食アレルギー対応献立レシピ研究事業					関係市町名
事業概要	高梁川流域の各市町の学校給食にアレルギー対応食献立を導入することを推進するため、圏域内の学校給食担当者によるレシピ集を作成する。					新見市、高梁市、総社市、早島町、倉敷市、矢掛町、浅口市、里庄町
成果	圏域内の学校給食のアレルゲンを含まない献立メニュー開発と一緒に取り組むことにより、栄養士の能力向上、十分なレシピ数を確保することによる献立作成負担の軽減を図る。また、食物アレルギー対応に対する啓発や現場の食育に活用することも可能になる。					
関係市町の役割分担	倉敷市が中心となって、研修の講師依頼や内容等を企画運営し、レシピ集作成の分担等を行い実施する。					
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計
	—	—	—	441	241	682
国県補助事業等の名称・補助率等	該当なし					
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方	原則として、倉敷市が負担する。					

5. 「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」における具体的取組等

事業名	中高年健康スポーツ推進事業					関係市町名
事業概要	圏域内の大学と連携し、運動にスポーツ医科学を取り入れた「中高年健康スポーツ教室」を実施するなど、高齢者等の健康増進に向けた取組を推進する。 また、圏域内の職員の資質向上を図り、健康課題を踏まえた事業展開等を検討する会議を開催する。					全市町
成果	スポーツ医科学を取り入れた取組や各種啓発活動を実施し、高齢者等の地域住民の健康増進と健康寿命の延伸が図られる。					
関係市町の役割分担		実施主体となる市町が中心となって実施し、関係市町は住民への周知等を行う。				
事業費 (千円)	H27 5,118	H28 4,414	H29 6,164	H30 6,047	H31 5,846	計 27,589
国県補助事業等の名称・補助率等		該当なし				
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方		原則として、実施主体となる市町が負担する。				

事業名	備中町並みネットワーク事業					関係市町名
事業概要	備中地域の町並み保存・活性化を目的とした官民のネットワークを構築し、備中町並みゼミの開催などを行う。					新見市、高梁市、総社市、 倉敷市、矢掛町、井原市、 浅口市
成果	伝統的建造物や自然景観などの歴史文化遺産群の保存・活用を広域で官民が連携することで、大きな成果が期待できる。					
関係市町の役割分担		町並み保存団体が主体となって行う活動に対して、行政として必要な支援を行う。				
事業費 (千円)	H27 430	H28 430	H29 430	H30 2,370	H31 2,370	計 6,030
国県補助事業等の名称・補助率等		該当なし				
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方		事業費の一部を関係市町が負担する。				

5. 「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」における具体的取組等

d 土地利用

連携協約の内容			
規模や地域特性を活かした都市空間の再形成等に向けた取組を行う。			
重要業績評価指標（KPI）			
指標（圏域の数値）	基準値	現状値	目標値（H31）
航空写真共同撮影事業の連携自治体数	2自治体（H28）	—	4自治体

事業名	航空写真共同撮影事業					関係市町名
事業概要	地理情報システムデータの更新等の基になる航空写真の撮影等を共同で実施する。					高梁市、総社市、倉敷市、矢掛町、井原市、浅口市、里庄町、笠岡市
成果	市域を越えて撮影することで事務の合理化・事務費削減効果が見込まれる。このことにより、多数の市町で航空写真の入手が容易となり、多岐に渡る自治体業務への利活用が期待できる。					
関係市町の役割分担						
倉敷市が中心となって実施し、必要に応じて関係市町と協議により決定する。						
事業費（千円）	H27	H28	H29	H30	H31	計
	—	38,460	0	0	66,054	104,514
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
面積等に応じて、関係市町で負担する。						

e 地域振興

連携協約の内容			
にぎわいの創出や地場産業の振興、企業誘致、観光資源の開発等、地域振興に向けた取組を行う。			
重要業績評価指標（KPI）			
指標（圏域の数値）	基準値	現状値	目標値（H31）
流域協働連携推進事業を通じて実施した事業数【H28-H31の4か年累計】	—	16事業（H27-H30）	24事業

5. 「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」における具体的取組等

事業名	高梁川流域地域づくり連携推進事業					関係市町名
事業概要	2以上の市町の団体が連携し、圏域市町に共通する地域課題の解決に取り組む事業を支援する。					全市町
成果	圏域市町間の人材の活用や新たなネットワークの構築、そしてノウハウや情報の共有が可能となる。					
関係市町の役割分担						
倉敷市が中心となって実施し、必要に応じて各市町と協議により決定する。						
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計
	0	3,000	3,000	2,250	2,250	10,500
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
倉敷市が負担する。						

事業名	高梁川流域協働のまちづくり推進事業					関係市町名
事業概要	倉敷市等が、各市町の共通課題の効率的な解決や広域でのネットワーク構築を目的として、圏域内の住民やNPO団体等を対象に、交流会や研修会などを実施する。					全市町
成果	各市町の共通課題の効率的な解決や広域でのネットワーク構築が可能となる。					
関係市町の役割分担						
倉敷市など実施主体が中心となって実施し、他の市町は住民等への周知などを行う。						
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計
	1,277	920	1,133	1,600	1,600	6,530
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
原則として、実施主体となる市町が負担する。流域市町合同で開催する推進会議、課題解決モデル事業等については、倉敷市が負担する。						

事業名	大学等による地域貢献促進事業					関係市町名
事業概要	大学が持つ知識や技術の地域への還元、また、学生が地域と関わり、愛着・誇りの醸成や定住促進等に結び付く取組を実施する。					全市町
成果	大学・学生等と地域の関係がより密接になり、地域の活性化が促進される。					
関係市町の役割分担						
倉敷市が中心となって実施し、必要に応じて関係市町と協議する。大学への呼びかけや調査等は当該大学立地市町の協力を得て行う。						
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計
	0	0	0	0	0	0
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
関係市町と協議し決定する。						

5. 「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」における具体的取組等

事業名	高梁川流域吉備真備囲碁交流事業					関係市町名
事業概要	奈良時代に中国から囲碁を持ち帰ったと伝えられる吉備真備ゆかりの地で、囲碁大会を開催する。					新見市、高梁市、総社市、早島町、倉敷市、矢掛町、井原市、里庄町
成果	囲碁を通じて高梁川流域内の交流を図る。					
関係市町の役割分担						
倉敷市が中心となって実施し、関係市町は住民等への周知等を行う。						
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計
	—	0	508	11,466	0	11,974
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
原則として、倉敷市が負担する。						

f 災害対策、環境

連携協約の内容			
災害対策の推進や環境保全推進への取組を行う。			
重要業績評価指標（KPI）			
指標（圏域の数値）	基準値	現状値	目標値（H31）
避難所運営演習参加者数 【H27-H31の5か年累計】	53人（H27）	176人 （H27-H30.12）	300人
倉敷市環境学習センターの 利用校数 （倉敷市以外の圏域内小・中学校）	0校（H27）	1校（H30）	5校

事業名	防災力強化事業					関係市町名
事業概要	圏域住民を対象とした防災講演会等を実施する。その他、圏域での連携事業（合同防災訓練、防災備蓄、研修会等）の実施について、関係市町と協議・検討する。					全市町
成果	圏域内の一体的・効率的な防災力の強化とともに、圏域住民の防災意識の向上が期待できる。					
関係市町の役割分担						
防災講演会は、倉敷市が中心となって実施し、関係市町は住民への周知等を行う。その他の事業は各市町との協議により決定する。						
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計
	2,841	1,049	3,007	1,127	2,000	10,024
国県補助事業等の名称・補助率等						
地域防災力強化総合支援事業費補助金（県 1/2 以内）						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
原則として、倉敷市が負担し、内容に応じて各市町と協議により決定する。						

5. 「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」における具体的取組等

事業名	備中地区消防相互支援事業					関係市町名
事業概要	高梁川流域6消防本部が持てる能力及び資機材を融通し合う又は協力することにより、圏域全体の消防力を高める。					全市町 (備中地区6消防本部)
成果	圏域内の住民に安心感を与え、住みやすいと感じる地域をつくる。					
関係市町の役割分担						
関係市町と協議により決定する。						
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計
	—	0	0	0	9,097	9,097
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
必要に応じて各市町と協議により決定する。						

事業名	生物多様性エコツアーの相互実施支援事業					関係市町名
事業概要	圏域内の農村・漁村や里山などの地域資源のほか、生物多様性の保全に積極的に取り組む地元企業を取り入れた体験型のエコツアーを実施する。					新見市、高梁市、総社市、 早島町、倉敷市、矢掛町、 井原市、浅口市、笠岡市
成果	圏域市町の連携によるエコツアー受入先の充実により、参加者の学習成果が向上する。					
関係市町の役割分担						
各市町はエコツアー協力先の情報収集を行い、倉敷市がデータベースとして取りまとめる。各市町はデータベースを活用し、民間のエコツアーの実施支援を行う。						
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計
	0	151	584	540	540	1,815
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
原則として、倉敷市が負担する。						

事業名	倉敷市環境学習センターでの環境学習事業					関係市町名
事業概要	倉敷市以外の圏域6市3町の児童・生徒が校外学習等で環境学習を実施する場として「倉敷市環境学習センター」を提供する。					全市町
成果	圏域の児童・生徒の環境意識の高まりにより、高梁川流域の環境保全を推進する。					
関係市町の役割分担						
関係市町が児童・生徒の施設利用を希望する際に、倉敷市は受け入れて対応する。						
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計
	0	0	0	0	0	0
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
事業費の発生が見込まれる時は、費用負担について検討する。						

5. 「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」における具体的取組等

事業名	高梁川流域圏内クリーン一斉行動事業					関係市町名
事業概要	高梁川流域のゴミの現状を把握するとともに、高梁川本来の清流を取り戻すため、高梁川流域圏内の市町で一斉に清掃活動を実施する。					全市町
成果	圏域内の住民が、合同の清掃活動に参加することで、圏域全体の環境保全について関心を深めてもらうとともに、積極的に環境保全活動に参加する意識の醸成を図る。					
関係市町の役割分担						
関係市町がそれぞれ実施し、倉敷市は、一部用品を調達し、関係市町に配布する。						
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計
	—	1,005	587	491	497	2,580
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
実施する各市町が負担する。						

イ 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

a 地域公共交通、道路等の交通インフラ整備

連携協約の内容	圏域住民の移動手段確保のための取組を行うとともに、利便性向上や救急医療体制の機能向上のため、道路等の交通インフラ整備・維持に向けた取組を行う。
---------	---

事業名	幹線道路の整備促進事業					関係市町名
事業概要	広域的なネットワークとして必要かつ重要な幹線道路について、関係機関との連携により、整備を促進する。					全市町
成果	広域的な交通アクセスの確立により、圏域内住民相互の利便性向上及び、救急医療体制等の機能向上につながる。					
関係市町の役割分担						
関係市町が連携し、関係機関へ要望する。						
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計
	—	—	599	810	850	2,259
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
関係市町と協議し決定する。						

b ICTインフラ整備

連携協約の内容	ICTを活用した利便性の向上やテレワーク推進のため、ICTインフラの整備に向けた取組を行う。 ※平成27年度以降、取組の具体化したものについて掲載する。
---------	---

5. 「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」における具体的取組等

c 地域の生産者や消費者等の連携による地産地消

連携協約の内容
食の安全安心の確保や地域経済循環のため、圏域の生産者や消費者等の連携による地産地消の推進に向けた取組を行う。 ※平成27年度以降、取組の具体化したものについて掲載する。

d 地域内外の住民との交流・移住促進

連携協約の内容			
三大都市圏等からの人口流入を図るため、I J Uターン及び定住の促進に向けた取組を行う。			
重要業績評価指標（K P I）			
指標（圏域の数値）	基準値	現状値	目標値（H31）
倉敷・流域お試し住宅利用による移住者数 【H27-H31の5か年累計】	9人（H27）	97人 （H27-H30.12）	100人
結婚相談所事業及び婚活推進事業での成婚数 【H27-H31の5か年累計】	26組（H27）	89組 （H27-H30.12）	200組

事業名	移住交流推進事業						関係市町名
事業概要	東京・大阪で開催される移住交流イベント等への圏域市町での共同出展やお試し住宅の運営の他、関係市町が地域の特色を生かした取組を実施する。						全市町
成果	各市町が単独で実施するよりも首都圏等への発信力が増し、より効果的・効率的な移住促進が可能となる。						
関係市町の役割分担							
移住交流イベント等への出展では、倉敷市は、出展市町の取りまとめ、出展しない市町の移住パンフレットの収集を行う。出展に係る直接的な事務は各市町で実施する。その他、実施主体となる市町が中心となって実施し、関係市町は必要に応じて協力する。							
事業費（千円）	H27	H28	H29	H30	H31	計	
	5,142	10,798	41,605	44,951	49,632	152,128	
国県補助事業等の名称・補助率等							
地方創生推進交付金（国 1/2）							
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方							
原則として、圏域の取組として設置するブース代は倉敷市が負担し、職員旅費は当該市町が負担する。その他、原則として、実施主体となる市町が負担する。							

5. 「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」における具体的取組等

事業名	移住定住冊子作成等圏域発信事業						関係市町名
事業概要	圏域への移住定住の促進を目的に、冊子等の作成や移住情報誌等を活用した広報を行う。						全市町
成果	移住定住に係る情報発信を圏域で行うことにより、効率的かつ充実した内容で実施することが可能となり、各市町への移住を更に促進することができる。						
関係市町の役割分担							
倉敷市は委託契約などの業務を実施し、関係市町は、冊子作成や広報等に必要な情報提供等を行う。							
事業費 (千円)	H27 12,188	H28 4,828	H29 2,500	H30 5,959	H31 8,015	計 33,490	
国県補助事業等の名称・補助率等							
地方創生推進交付金（国 1/2）							
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方							
原則として、倉敷市が負担するが、必要に応じて、関係市町と協議し決定する。							

事業名	結婚相談所運営事業						関係市町名
事業概要	圏域内に住所又は勤務地を有する者、あるいは父母が圏域内に住所を有する者を対象に結婚相談事業を実施する。						全市町
成果	対象者の条件を緩和（圏域に拡大）することで、結婚への可能性が向上し、移住定住者の増加につながる。						
関係市町の役割分担							
倉敷市など実施主体が中心となって実施し、関係市町は住民への周知等を行う。その他、必要に応じて関係市町と協議し決定する。							
事業費 (千円)	H27 11,088	H28 11,284	H29 11,236	H30 11,236	H31 11,384	計 56,228	
国県補助事業等の名称・補助率等							
該当なし							
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方							
原則として、実施主体となる市町が負担する。							

事業名	高梁川流域婚活推進事業						関係市町名
事業概要	圏域在住、在勤の住民等を対象に、交流イベント等による結婚支援事業を実施する。						全市町
成果	圏域市町が協力することで、効率的な運営が可能となるほか、新たな出会いの可能性が向上する。						
関係市町の役割分担							
倉敷市など実施主体が中心となって実施し、関係市町は住民への周知等を行う。その他、必要に応じて関係市町と協議し決定する。							
事業費 (千円)	H27 2,297	H28 4,700	H29 5,750	H30 6,550	H31 6,959	計 26,256	
国県補助事業等の名称・補助率等							
該当なし							
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方							
原則として、実施主体となる市町が負担する。							

5. 「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」における具体的取組等

e その他、結びつきやネットワークの強化に係る連携

連携協約の内容			
広報活動の連携等、圏域の結びつきやネットワーク強化を目的とした取組を行う。			
重要業績評価指標（KPI）			
指標（圏域の数値）	基準値	現状値	目標値（H31）
広報紙面交流で掲載した記事数 【H27-H31の5か年累計】	18回（H27）	71回 （H27-H30.12）	90回

事業名	広報紙面交流事業					関係市町名
事業概要	圏域市町の各広報紙において、互いに他市町の施策やイベントの記事を掲載する。					全市町
成果	各市町の施策・イベントを圏域全体に広報でき、圏域全体の結びつきや一体感を醸成できる。					
関係市町の役割分担						
関係市町により、掲載案件の提案と掲載時期の調整を行う。						
事業費 （千円）	H27	H28	H29	H30	H31	計
	0	0	0	0	0	0
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
費用負担は発生しない。						

ウ 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野

a 人材の育成、圏域内市町村の職員等の交流、外部からの行政及び民間人材の確保

連携協約の内容			
圏域マネジメント能力強化のため、圏域市町の職員の人材育成や人事交流、ファシリティマネジメントの推進、外部からの行政及び民間人材の確保に向けた取組を行う。			
重要業績評価指標（KPI）			
指標（圏域の数値）	基準値	現状値	目標値（H31）
職員合同研修参加者数 【H27-H31の5か年累計】	35人（H27）	87人 （H27-H29）	175人
公共ファシリティマネジメント 研修への新規参加者数 【H27-H31の5か年累計】	93人（H27）	291人 （H27-H30）	173人
圏域内公共建物現況調査及び台帳 作成支援による調査委託料削減額 【H27-H31の5か年累計】	14,739千円 （H27）	26,978千円 （H27-H30）	22,000千円

5. 「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」における具体的取組等

事業名	職員合同研修実施事業					関係市町名
事業概要	圏域市町の職員の人材育成のため、職員合同研修を実施する。					全市町
成果	圏域市町が合同で職員研修を実施することで、効率的な運営が可能となるほか、職員間の情報共有や意見交換が可能となる。					
関係市町の役割分担	倉敷市が中心となって、関係市町のニーズを収集し、研修を実施する。					
事業費 (千円)	H27 370	H28 370	H29 370	H30 370	H31 370	計 1,850
国県補助事業等の名称・補助率等	該当なし					
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方	原則として、倉敷市が負担する。					

事業名	圏域内職員の人事交流（相互交流）事業					関係市町名
事業概要	圏域市町間の人事交流について検討、実施する。					新見市、高梁市、総社市、 早島町、倉敷市、矢掛町、 浅口市、笠岡市
成果	各市町間の相互理解と連携強化、人材育成による各市町の組織活性化につながる。					
関係市町の役割分担	必要に応じて各市町と協議により決定する。					
事業費 (千円)	H27 0	H28 0	H29 0	H30 0	H31 0	計 0
国県補助事業等の名称・補助率等	該当なし					
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方	必要に応じて各市町と協議により決定する。					

事業名	公共ファシリティマネジメント推進事業					関係市町名
事業概要	圏域市町の職員を対象に、公共ファシリティマネジメントについての研修を実施する。					全市町
成果	担当職員の知識向上のほか、公共施設の更新や再編問題を圏域全体で捉えて、検討や協議を行う環境づくりにつながることを期待できる。					
関係市町の役割分担	倉敷市が中心となって、研修を実施する。					
事業費 (千円)	H27 387	H28 417	H29 411	H30 145	H31 14	計 1,374
国県補助事業等の名称・補助率等	該当なし					
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方	原則として、倉敷市が負担する。					

5. 「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」における具体的取組等

事業名	圏域内公共建物現況調査及び台帳作成支援事業					関係市町名
事業概要	建物点検のノウハウを有する倉敷市の専門技師が圏域市町の施設点検を実施し、公共施設更新費用試算を行い、公共施設実態報告書を作成する。					全市町
成果	圏域市町は、専門技師を新たに確保することなく、公共建物の保全が可能となる。					
関係市町の役割分担						
倉敷市は、建物点検実施、公共施設調査報告書を作成し、建物データベースを作る。関係市町は、データベースを基に個別施設計画の策定、公会計への移行などに必要な準備作業に着手する。倉敷市は、これらの一連の作業について、データ分析等でアドバイザー業務を継続的に行う。						
事業費 (千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計
	5,020	5,648	1,121	1,214	—	13,003
国県補助事業等の名称・補助率等						
該当なし						
関係市町の費用負担割合に係る基本的な考え方						
関係市町と協議し決定する。						

発 行 倉敷市
〒710-8565 岡山県倉敷市西中新田 640 番地

編 集 倉敷市 企画財政局 企画財政部 企画経営室
TEL : 086-426-3055 FAX : 086-426-5131
E-mail : plnpol@city.kurashiki.okayama.jp
ホームページ URL :
<http://www.city.kurashiki.okayama.jp/>

発行日

策 定 平成 27 年 (2015 年) 3 月
第 1 回改訂 平成 28 年 (2016 年) 3 月
第 2 回改訂 平成 29 年 (2017 年) 3 月
第 3 回改訂 平成 30 年 (2018 年) 3 月
第 4 回改訂 平成 31 年 (2019 年) 3 月